

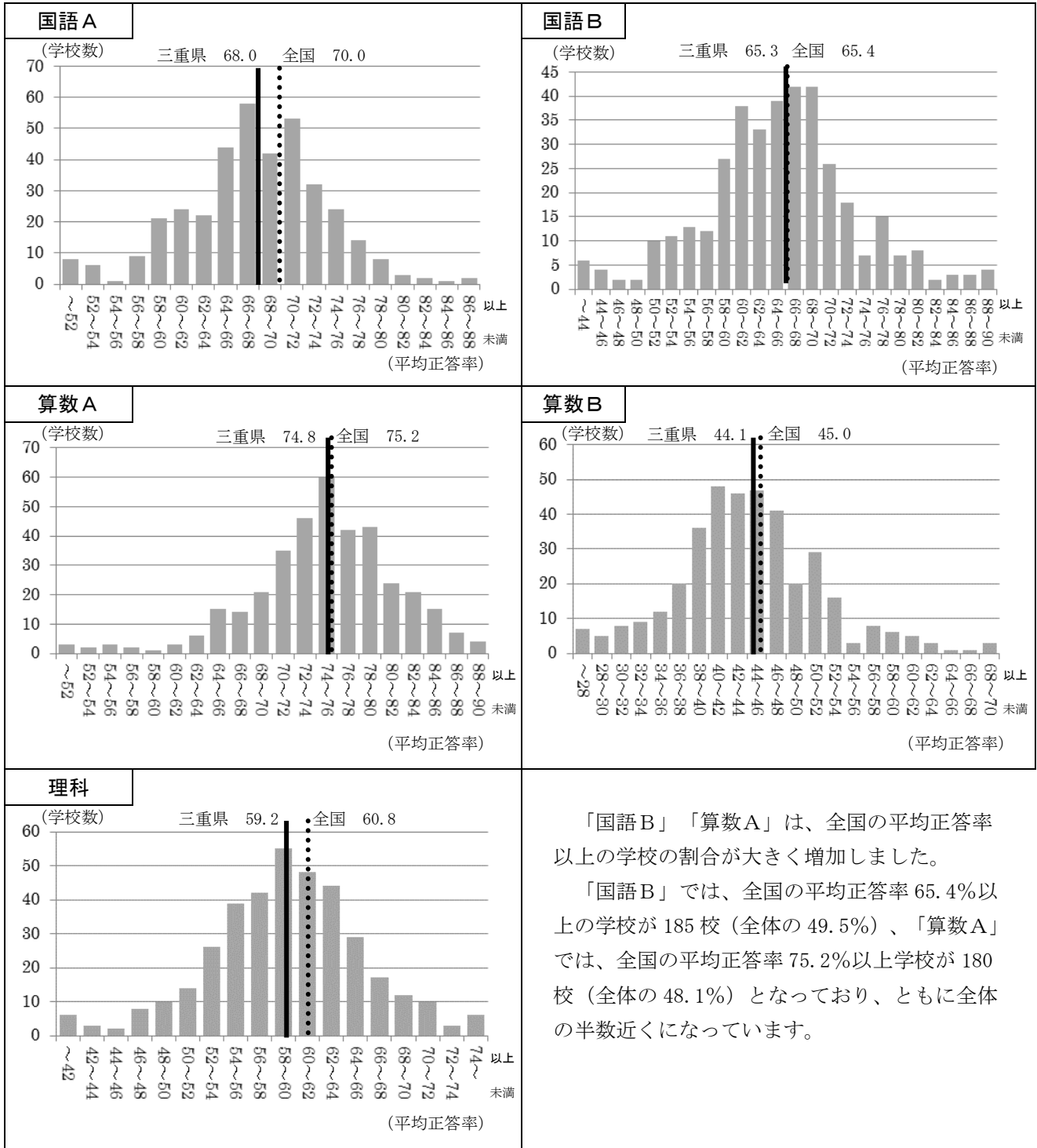
第2章 小学校詳細分析～教科に関する調査～

1

平均正答率による学校の分布

【関連：第5章P.54～】

学校ごとの分析を踏まえ、各学校の課題に応じた取組を進めましょう。



2

正答数の度数分布

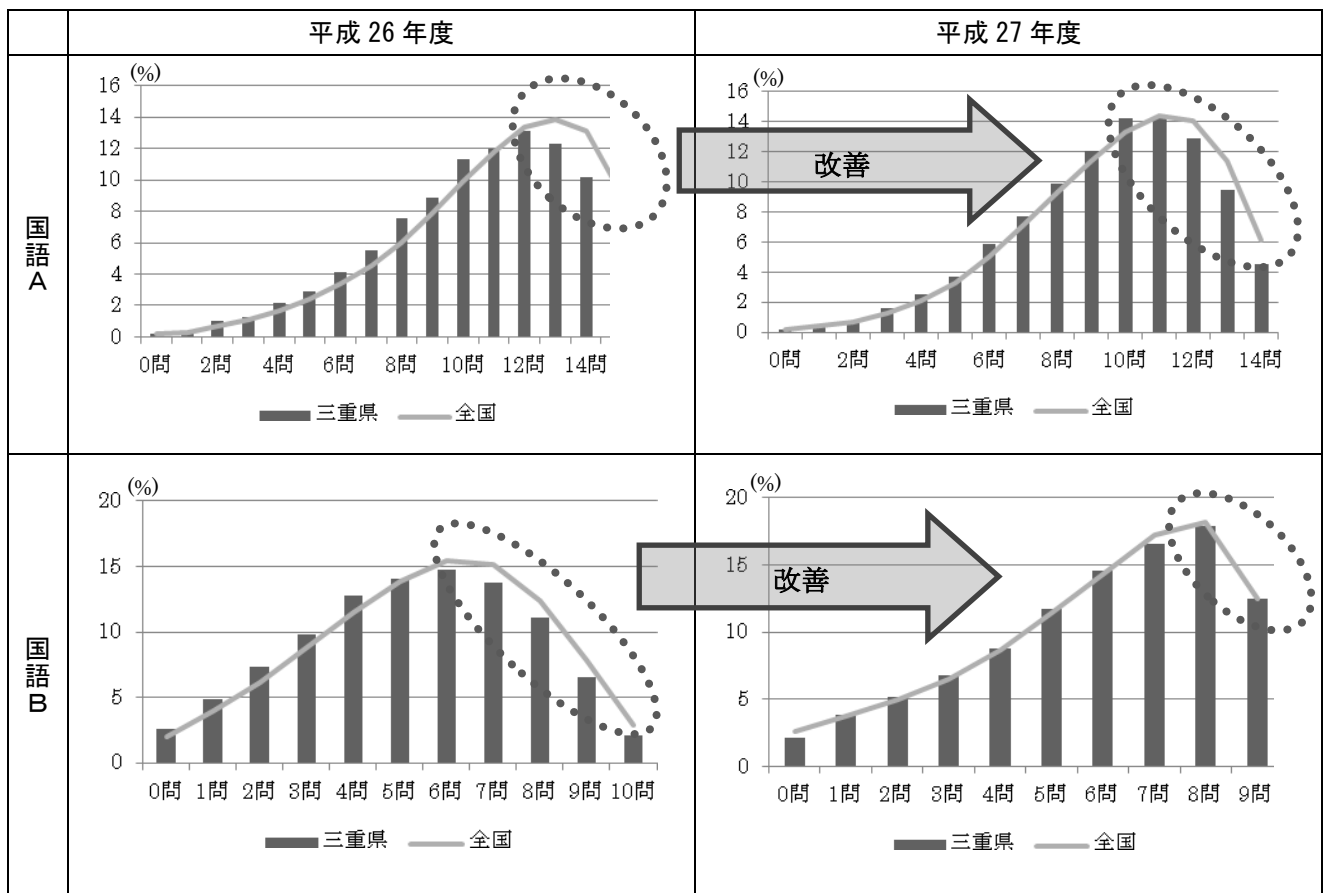
【関連：第5章P.55～】

正答数による度数分布グラフを各教科2か年分並べ、過年度からの変化を見ていきます。

国語

「国語B」においては、全国の分布とほぼ同じ形になっています。

「国語A」においては、学力を高めていく取組として、児童が該当単元につけるべき国語の能力を確実に身に付けられるよう、指導事項を明確に把握し、ねらいにふさわしい言語活動を位置付けることが大切です。また、学習した知識や技能を活用できるようにするために、児童自身が目的意識や必要感を実感できるような言語活動を単元に位置付けて指導を行ったり、実際の生活場面において使いこなす機会を多くもったりするなど、学習指導の工夫が大切です。

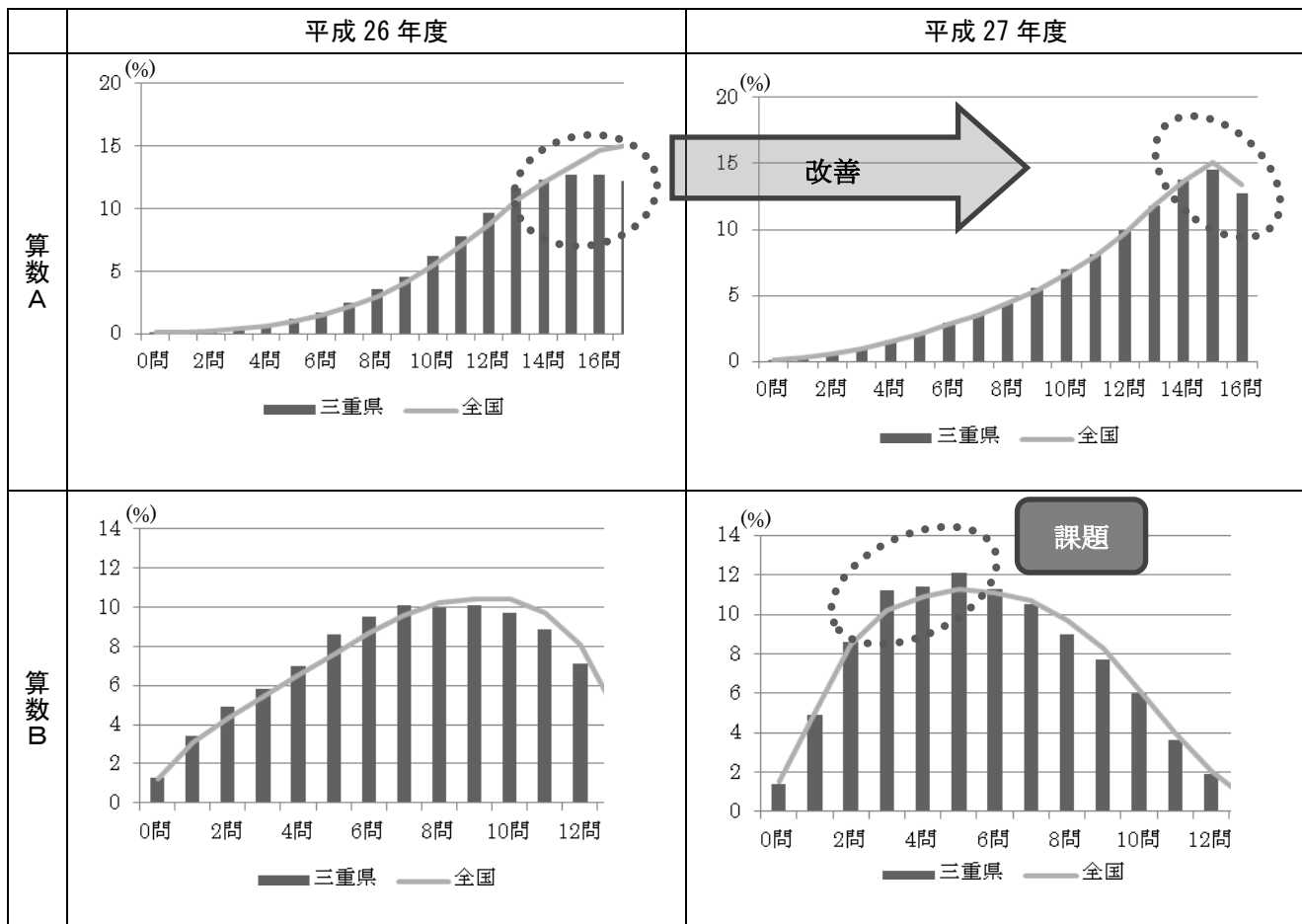


算数

「算数A」においては、全国の分布とほぼ同じ形になっています。

「算数A」が全国とほぼ同じ形であるということから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていると考えられます。このことから、知識・技能を活用して、見通しを持ち筋道を立てて考える能力の育成が必要です。そのためにも、自分の考えたことを表現したり、他者に説明したりする学習活動を取り入れていくことが大切です。

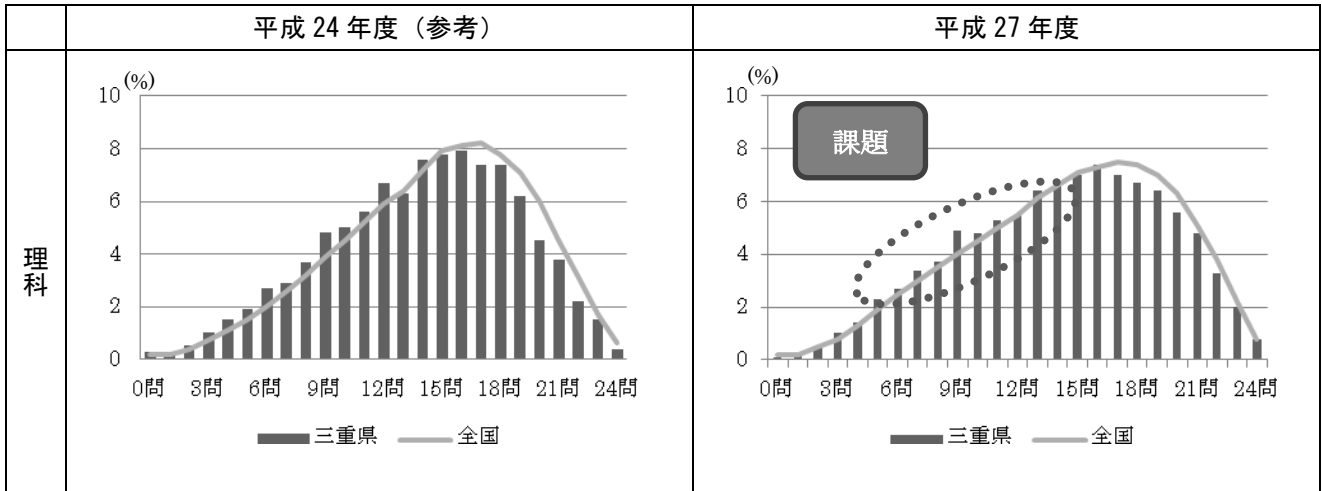
知識の活用を主眼に置いた指導の組み立てにおいては、課題の設定により児童の興味・関心を高めるとともに、学習後、場面や数値などの条件を変えて、発展的に考える活動を取り入れるなど、知識の活用の仕方を定着させていくことが大切です。



理科

全国に比べて、全体的にやや正答数が低いところに分布しています。

全国に比べ、正答数が低いところの分布がやや多く、正答数が高い分布はやや少ない状況です。



全体、観点、領域、問題形式ごとに全国の平均正答率との差をグラフに示しました。

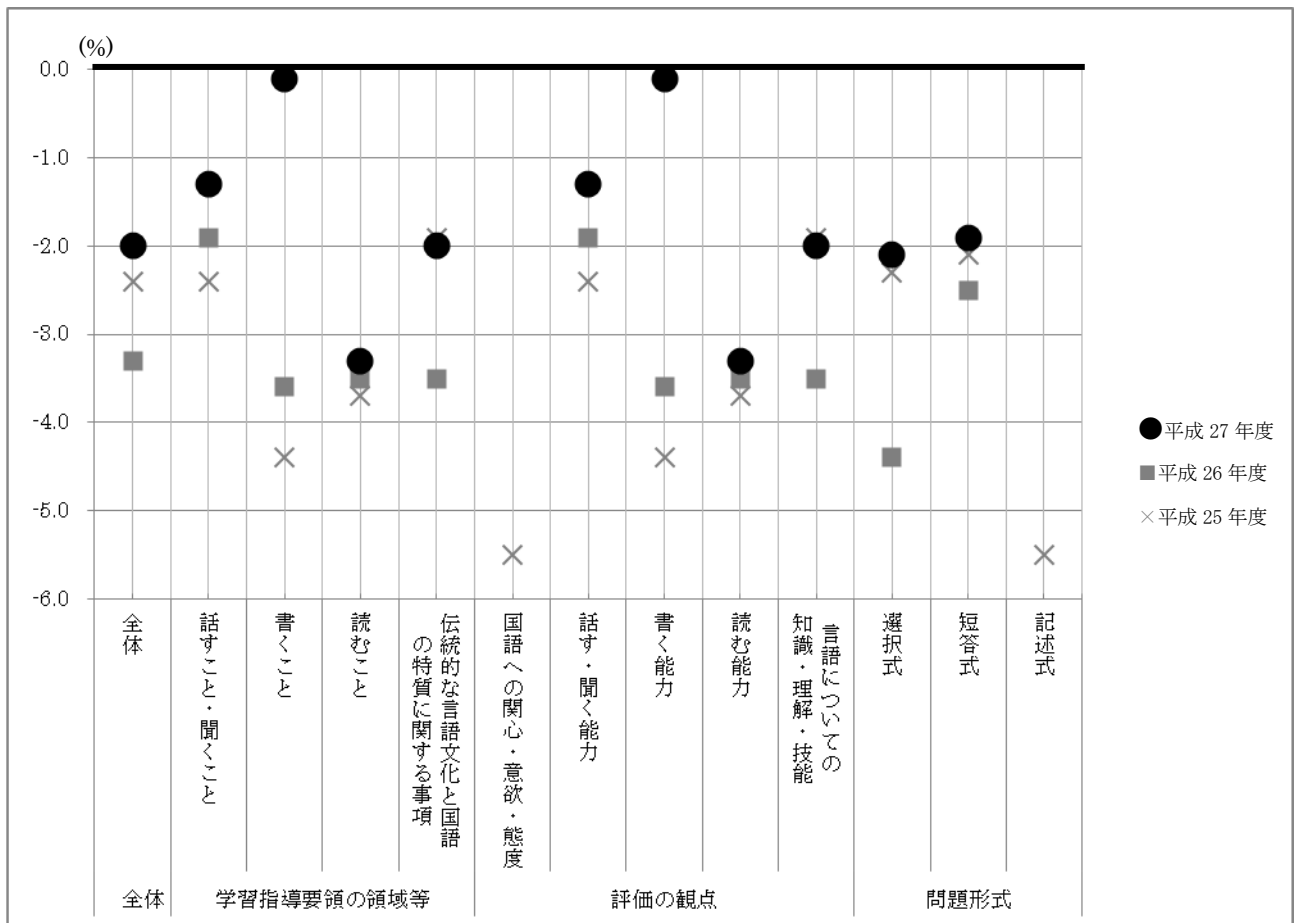
国語 A

領域、観点、問題形式別

「書く能力」の伸びが顕著。一方「読む能力」は顕著な変化なし。

全般的に改善されており、特に「書くこと」「書く能力」に大きく改善が見られます。

「読むこと」「読む能力」については、顕著な改善が見られません。



※該当の出題がない年度には印がありません。

国語 A

設問別

【よくできていた設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|------|-----------------------|-------------------------|------|------|-----|
| 1-2 | 漢字を読む (自分の信念をつらぬく) | 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む | 96.1 | 96.0 | 0.1 |
| 1-1 | 漢字を読む (友人を家に招く) | | 97.5 | 97.5 | 0.0 |

【課題があると考えられる設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|-------|------------------------|-------------------------|------|------|------|
| 1 二 3 | 漢字を書く (びょういんに行く) | 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く | 71.2 | 74.9 | -3.7 |
| 5 二 | コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く | 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える | 15.0 | 19.8 | -4.8 |
| 7 | 応募のきまりを守っていないものを選択する | 作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る | 69.7 | 73.9 | -4.2 |

漢字の書きの問題は3問中3問とも全国の平均正答率を下回っています。モジュール学習^(注)や宿題等を活用した繰り返しの学習が必要です。

領域・観点別のデータにもあったように、「読むこと」に関する設問で全国との差が開いており、過去3年間、同様の状況になっています。平成27年度の問題では、設問番号5二、設問番号7で比較的大きな差がついていました。

(注)モジュール学習：モジュールは時間等の「単位」を意味しており、モジュール学習とは、10分、15分などの時間を単位として、取り組む学習形態である。[文部科学省HPより抜粋]

< 5 二 >

誤答の解答類型を見ると、「子ども読書」や「世界本の日」、あるいは「ゼロ弾きの」と解答しているものが、全国における割合より大きい状況です。固有名詞や書籍名で使っている「」や『』に引っ張られて解答しており、正しい「引用」の意味の理解が必要です。

< 7 >

誤答の解答類型を見ると、特にどれかの選択肢に誤りが集中していることもなく、どの誤答選択肢も全国における割合より大きい状況です。必要な情報を読み取る力に課題があると言えます。募集案内やポスターなどの文章や資料について情報を的確に捉えるためには、全体の構成や見出しなどに着目し、資料全体の情報を捉えるように指導することが必要です。

そのためには、児童自身にさまざまな資料を作る経験を積ませることが有効です。「国語」の問題では、チラシ、案内文などを児童自身が発信対象を明確にして作成し、それを児童同士で評価しあったり、作成上の工夫について考えたりというような学習場面の設定がよく出てきます。運動会や学習発表会などの行事で、児童自身に保護者や地域の方へのチラシや案内書の作成体験ができます。対象に対して伝えるべきことが網羅されているかを考えることを積み重ねていくことで考えるべき情報の広さ、多さに対応できるようになっていきます。

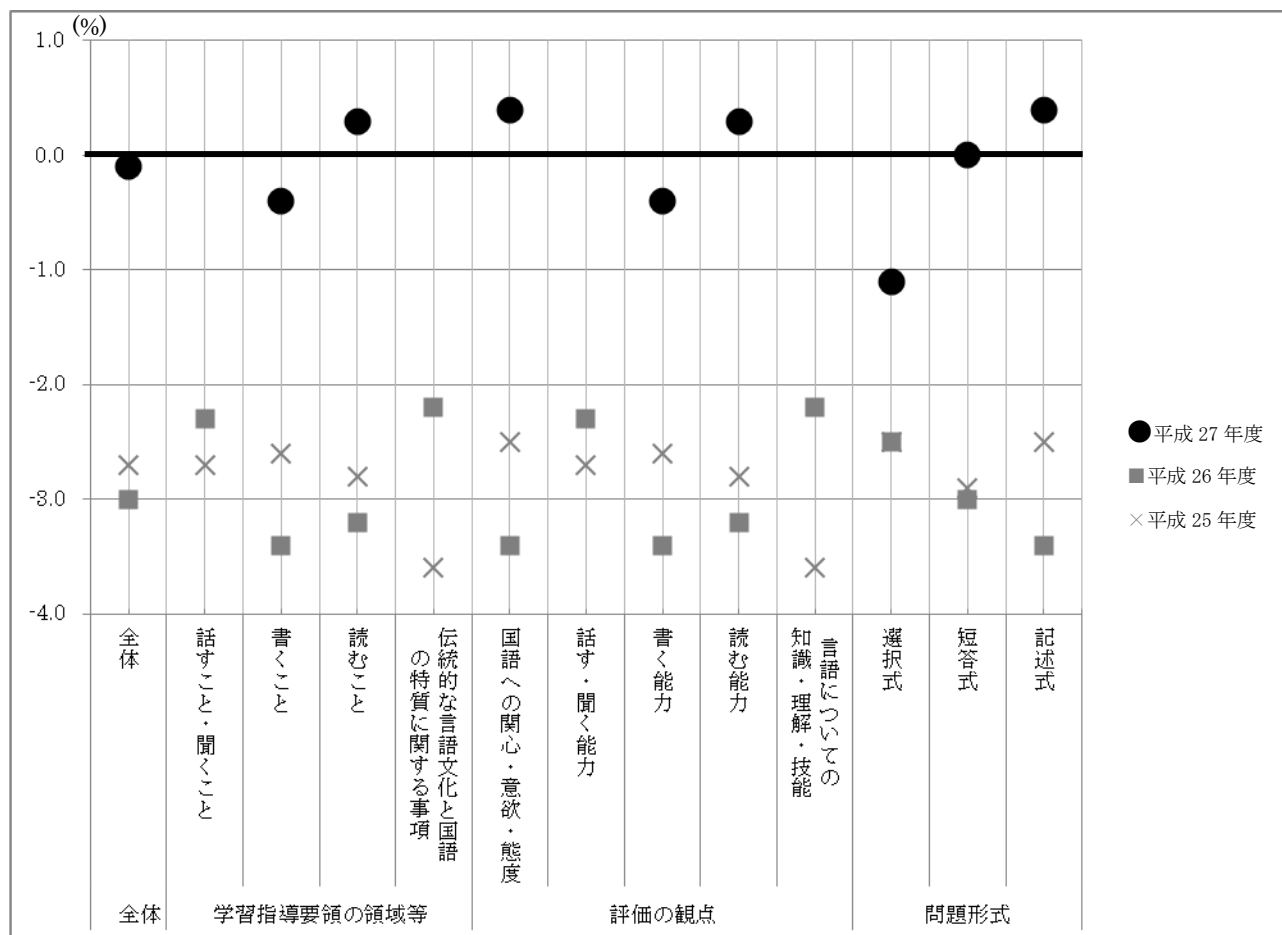
言語活動というと話し合いや発表等に偏りがちですが、「複数の情報を正しく読み取り、理解したうえでじっくり考えて文章を書く」という活動もバランスよく行うことが大切です。

国語B

領域、観点、問題形式別

全ての領域、観点において大きく改善されています。

「国語A」と比べ、「国語B」では、「書くこと」「書く能力」とともに、「読むこと」「読む能力」が大きく改善されています。



国語B

設問別

【よくできていた設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|------|-------------------------------|-----------------------------|------|------|-----|
| 1三 | 【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く | 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く | 35.6 | 34.7 | 0.9 |
| 2三 | 楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く | 文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く | 43.9 | 41.6 | 2.3 |
| 3一 | 〈絵3〉の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する | 登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える | 61.5 | 60.4 | 1.1 |

【課題があると考えられる設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|------|-------------------------------|------------------------|------|------|------|
| 1一 | 新聞の割り付けとして適切なものを選択する | 目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする | 73.1 | 74.6 | -1.5 |
| 1二 | 見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する | 目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける | 68.1 | 70.8 | -2.7 |
| 3二 | 声に出して読むときの工夫とその理由を書く | 登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する | 65.6 | 66.6 | -1.0 |

「国語A」の設問番号7は、複数の情報が与えられ、選択肢が適切な内容であるかどうか、与えられた情報全体を押さえながら検討することが求められている問題です。一方、「国語B」では、設問番号2三や設問番号3一は、与えられた文章の中でどの部分に着目して考えればよいか、設問によってある程度限定されている問題です。解答を導き出す力は身に付いていますが、必要な情報を取り出す力に課題があります。複数の情報を与えられ、そこから適切な情報を取り出す力の習得が大切です。

全国の平均正答率よりも低かった設問番号1一、設問番号1二、設問番号3二は、いずれも与えられた情報から必要な情報を取り出して考える問題です。

<1一>

新聞に書かれていることが、出来事なのか、調査なのか、紹介なのか、内容を読んで抽象化することが求められています。

<1二>

要約したり見出しを付けたりする学習活動や、対話の中で抽象的な言葉でまとめ直させるなどの活動の充実が必要です。

<3二>

声に出して読むときの工夫とその理由を書くというこの問題でも、事実と感想、意見などを区別して説明することが求められています。

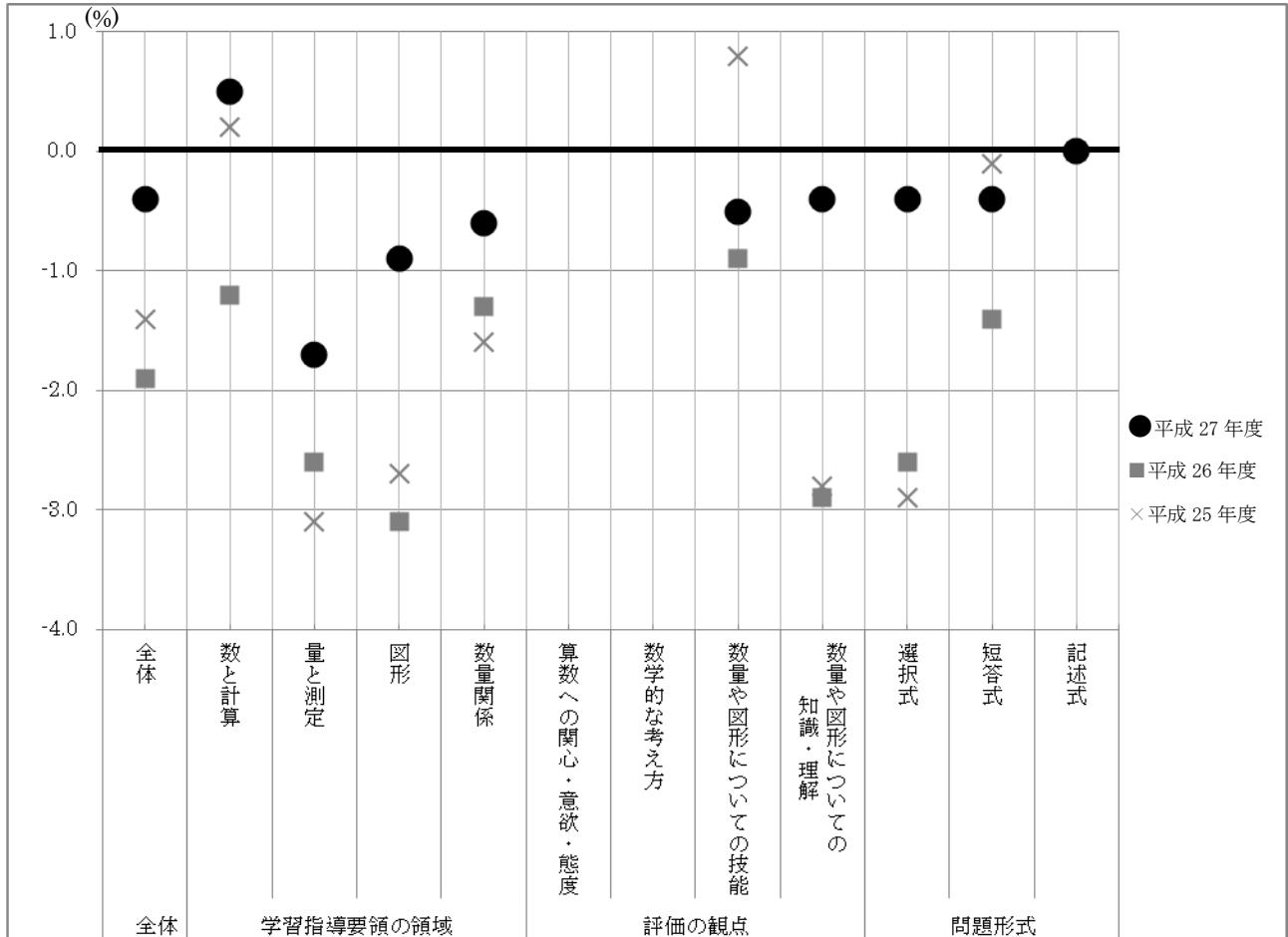
算数A

領域、観点、問題形式別

全ての領域・観点において、大きく改善されています。

「数と計算」については、全国の平均正答率を上回っています。

「量と測定」については、改善されつつありますが、一層の改善が必要です。



算数A

設問別

【よくできていた設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|-------|---|-----------------------------------|------|------|-----|
| 1 (1) | 8.9-0.78 の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ | 小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる | 73.5 | 71.0 | 2.5 |
| 1 (3) | 小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く | 加法における計算の確かめの方法を理解している | 82.9 | 82.0 | 0.9 |
| 2 (2) | 6.79-0.8 を計算する | 末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる | 70.9 | 69.5 | 1.4 |

【課題があると考えられる設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|------|--|---|------|------|------|
| 3 | 午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める | 日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる | 72.6 | 74.8 | -2.2 |
| 4(1) | 90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ | 180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる | 79.7 | 81.3 | -1.6 |
| 4(2) | 分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを求める | 180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる | 56.5 | 58.0 | -1.5 |
| 5(2) | 円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める | 円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる | 63.0 | 64.5 | -1.5 |

量と測定の領域からの出題全てが全国よりも下回っており、時間や角度の考え方や計算に課題が見られません。

< 3 >

誤答の解答類型を見ると、2時50分または3時5分と、家から学校、または学校から図書館のどちらか片方の条件だけを考慮した解答が全国の割合よりも大きい状況です。時計の読み取り等の習得が必要です。

< 4(1)・(2) >

180°を超える角度の取り扱いについての定着が弱いと考えられます。

特に分度器の使い方の定着に課題が見られます。指導については、操作活動を通して行うなど、効果的な指導方法の工夫が必要です。

< 5(2) >

角度の計算が必要な問題です。誤答の解答類型では、70°と解答している割合が全国よりも大きい状況にあります。論理的に考える前に、見た目、または角を表す弧を使った記号が⑦と⑧で同じであることに着目して、根拠や筋道を立てて説明できるように指導することが大切です。また、円と半径、二等辺三角形の定義や性質などの理解を深める必要もあります。

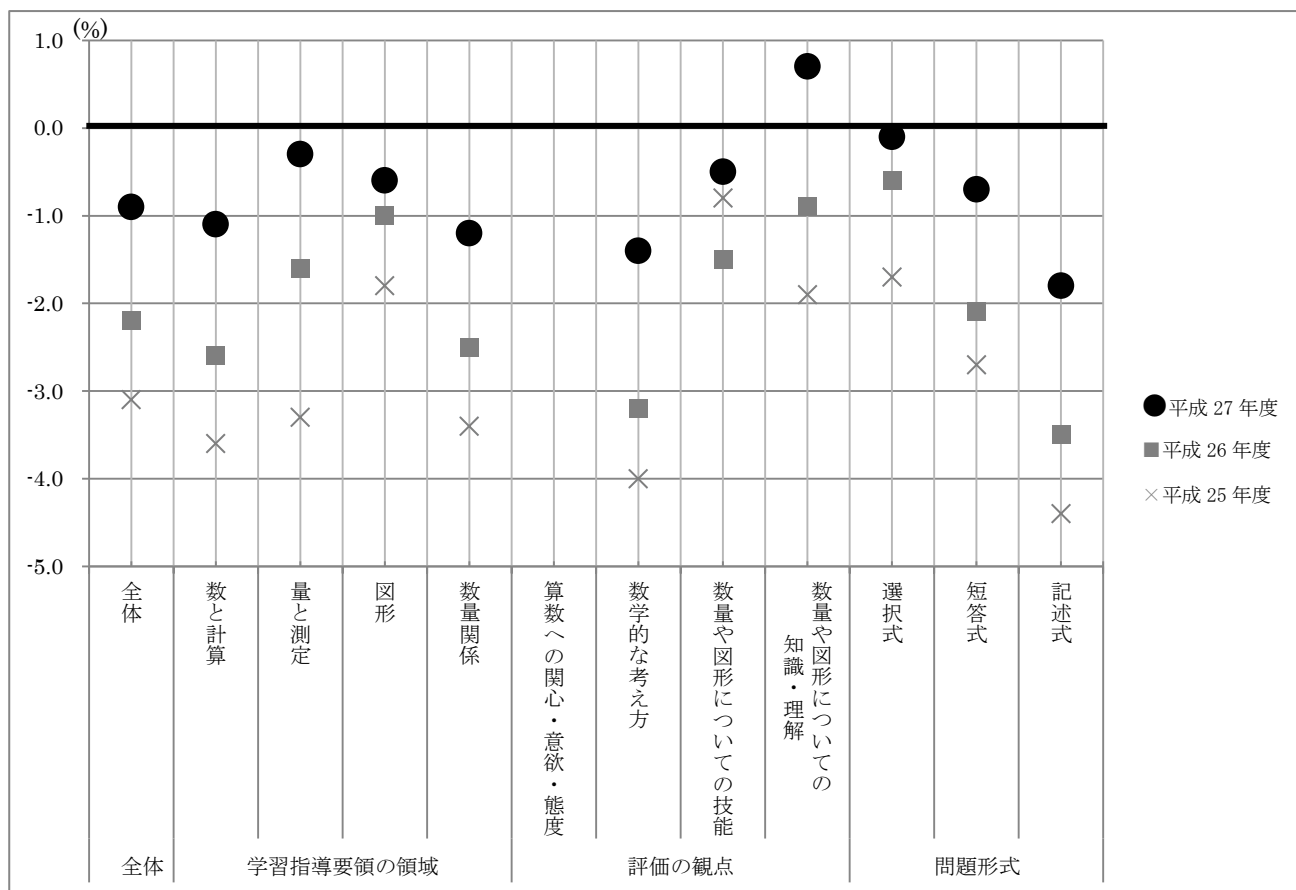
算数B

領域、観点、問題形式別

全ての領域、観点において、大きく改善が見られます。

「数量や図形についての知識・理解」の観点では全国平均正答率を上回っています。一方、「記述式」の形式については、改善されつつあるものの、課題が見られます。

「記述式」の問題では、事柄が成り立つことの根拠を説明するため、見通しをもち筋道を立てて考え、書くことが必要です。そのため、算数についても考え方やプロセス、理由・根拠を説明できるよう言語活動の充実を図る必要があります。



算数B

設問別

【よくできていた設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|-------|------------------------------------|---|------|------|-----|
| 1 (1) | 平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ | 平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している | 95.5 | 95.2 | 0.3 |
| 1 (2) | 作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ | 平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している | 55.7 | 54.6 | 1.1 |
| 2 (1) | トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く | 単分量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる | 65.1 | 64.8 | 0.3 |

【課題があると考えられる設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|-------|--|--|------|------|------|
| 1 (3) | 二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く | 示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる | 26.0 | 27.7 | -1.7 |
| 2 (3) | 示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く | 示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる | 48.8 | 51.0 | -2.2 |
| 3 (2) | 合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、⑦の角が 30° になるわけを書く | 正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が 30° になる理由を記述できる | 45.7 | 49.1 | -3.4 |

「算数B」の活用に関する問題の出題の特徴として、設定や状況に関する長い文章その他の情報を読み取り、その中から必要な情報を取り出しながら答えを出すだけでなく、理由や思考のプロセスを説明することが挙げられます。国語においては「書く能力」に改善が見られ、記述式の問題に課題があるとのデータは見られませんでした。しかし算数における記述式の問題では、説明する等の表現する力の定着に結びついていません。

「国語B」も同様ですが、これらの問題を解くために必要な力は、子どもたちが身に付けてほしい力であるとの出題者からのメッセージと捉え、指導に生かしていくことが大切です。

< 1 (3) >

誤答の解答類型を見ると、平行四辺形であることは書けているが、その特徴を書いていないものと無解答が全国の割合よりも大きい状況です。図形の特徴を言葉で説明するなどの力が必要です。

< 2 (3) >

正しい答え270ができていて説明が不十分な解答が、三重県で14.1%、全国で12.9%と1.2%の差がありました。一方、無解答率の差は三重県が13.2%、全国が12.8%とそれほど大きくはありません。答えはわかっても、適切に言葉で説明することができていない状況です。指導において、自分の考えをまとめ、表現するような場面の設定が必要です。

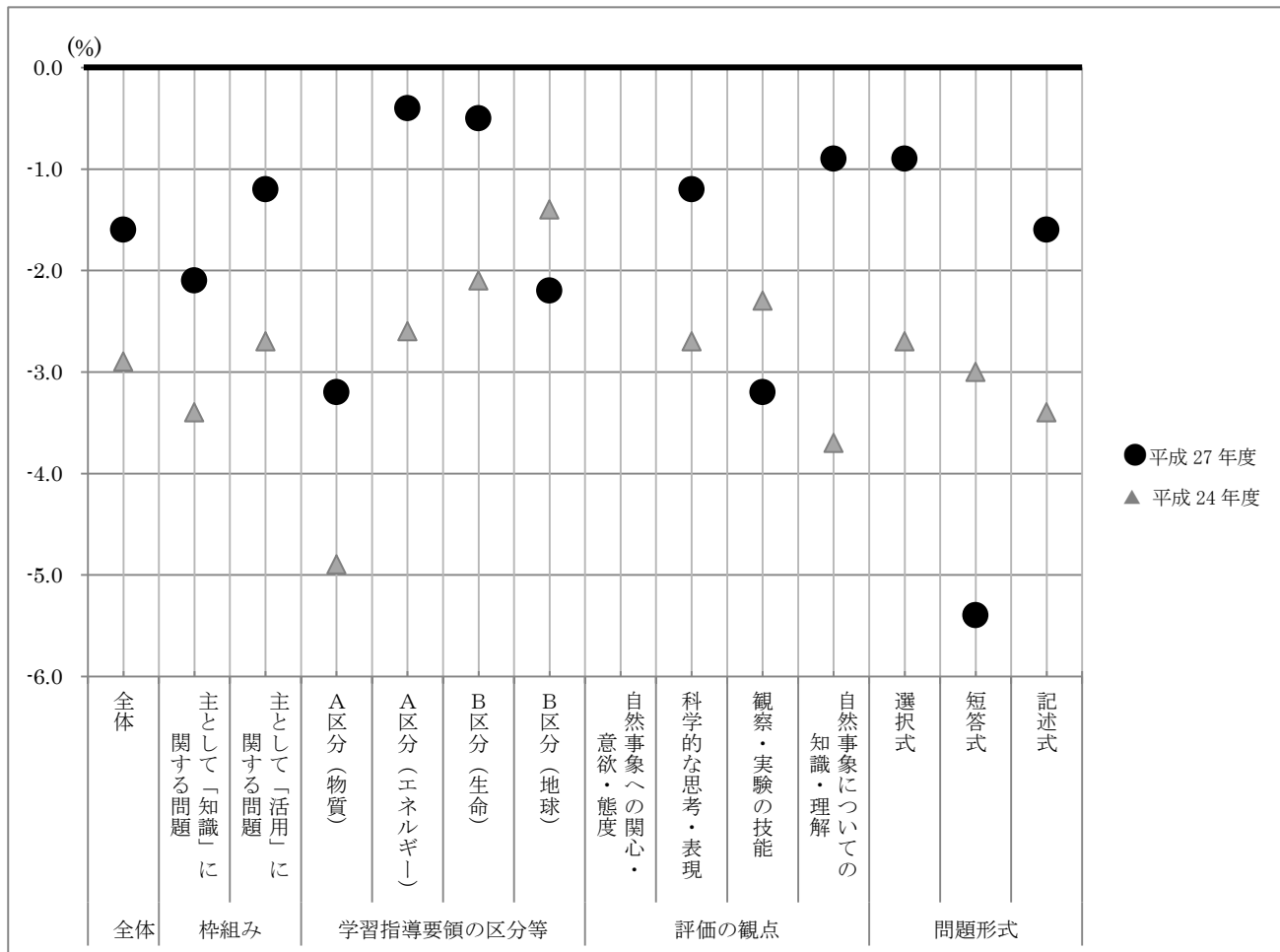
< 3 (2) >

2(3)と違い、答えは 30° であることが示されている問題です。この問題の無解答率は三重県が20.8%、全国が18.9%とやや差があります。求められていることは2(3)同様、解答を導くプロセスの言葉による説明です。普段の授業で、答えのみを重視するのではなく、プロセスの説明を大切にすることが必要です。

理科 領域、観点、問題形式別

全ての区分、観点において、全国の平均正答率を下回っており、課題が見られます。

抽出調査だった平成24年度の結果と比べると改善している領域・観点が多くありますが、「物質」の区分、「観察・実験の技能」の観点で特に全国平均正答率との差が開いており、課題が見られます。



理科 設問別

【よくできていた設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|---------|--|---|------|------|-----|
| 1 (5) ア | 電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ | 電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる | 73.0 | 72.7 | 0.3 |
| 2 (1) | メダカをめすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ | メダカの雌雄を見分ける方法を理解している | 82.9 | 78.0 | 4.9 |
| 2 (3) | 示された器具(顕微鏡)の名称を書く | 顕微鏡の名称を理解している | 61.8 | 61.6 | 0.2 |

【課題があると考えられる設問】

| 設問番号 | 設問の概要 | 出題の趣旨 | 三重県 | 全国 | 差 |
|-------|------------------------------|-----------------------------------|------|------|-------|
| 3 (4) | 示された器具（メスシリンダー）の名称を書く | メスシリンダーの名称を理解している | 60.0 | 70.7 | -10.7 |
| 3 (5) | メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ | メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている | 47.1 | 51.7 | -4.6 |
| 4 (5) | 水が水蒸気になる現象について、その名称を書く | 水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している | 52.9 | 58.5 | -5.6 |

必ずしも一般化できる分析ではありませんが、メダカのみすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ問題は全国平均正答率を大きく上回っていました。教室でメダカを飼育するなど、観察ができる環境をつくっていることの現れから、子どもたちにとって身近な動物に関する興味・関心が高いのではないかと考えられます。

化学の実験に関する問題の平均正答率が低い状況にあります。

< 3 (4) >

実験器具の名称の定着が図られていません。使用の目的を明らかにし、具体的な操作方法を示すとともに、安全に留意しながら、全ての児童が実際に器具を使うことにより操作方法を確実に習得できるようにすることが必要です。

< 3 (5) >

学校質問紙における観察、実験に関する全項目で「よく行っている」と回答した割合は、全国の割合を下回っており、観察、実験の経験不足があると考えられます。

< 4 (5) >

「じょう発」という言葉の知識が不足しているか、「じょう発」という言葉を知っていても、「水が水蒸気になって空気中に出ていく」という説明と結び付けられなかったことが考えられます。科学的な用語はその現象や定義などの理解を深めながら覚えていく必要があります。

全教科において大きな改善が見られます。

全教科で無解答率は、全国の平均無解答率と同程度ですが、「国語B」「算数B」は、全ての設問で全国の平均無解答率より高く、課題が見られます。

| | | 三重県 | 全国 | 差 | 全国平均より上回っている (課題がある) | |
|------|-----|--------|--------|-------|-------------------------|---------|
| | | | | | 設問数 | 比率 |
| 国語 A | 選択式 | 1.30% | 1.49% | -0.19 | 0/7 | 0.00% |
| | 短答式 | 5.39% | 5.63% | -0.24 | 2/7 | 28.57% |
| | 合計 | 3.34% | 3.56% | -0.21 | 2/14 | 14.29% |
| 国語 B | 選択式 | 2.47% | 3.60% | -1.13 | 0/3 | 0.00% |
| | 短答式 | 4.25% | 4.60% | -0.35 | 0/2 | 0.00% |
| | 記述式 | 9.78% | 8.70% | 1.08 | 4/4 | 100.00% |
| | 合計 | 6.11% | 6.09% | 0.02 | 4/9 | 44.44% |
| 算数 A | 選択式 | 1.40% | 1.64% | -0.24 | 0/5 | 0.00% |
| | 短答式 | 1.77% | 1.86% | -0.09 | 2/11 | 18.18% |
| | 合計 | 1.66% | 1.79% | -0.14 | 2/16 | 12.50% |
| 算数 B | 選択式 | 1.53% | 1.67% | -0.13 | 0/3 | 0.00% |
| | 短答式 | 6.14% | 6.24% | -0.10 | 2/5 | 40.00% |
| | 記述式 | 18.00% | 16.46% | 1.54 | 5/5 | 100.00% |
| | 合計 | 9.64% | 9.12% | 0.52 | 7/13 | 53.85% |
| 理科 | 選択式 | 1.32% | 1.41% | -0.09 | 2/18 | 11.11% |
| | 短答式 | 15.33% | 14.00% | 1.33 | 2/3 | 66.67% |
| | 記述式 | 2.83% | 3.20% | -0.37 | 0/3 | 0.00% |
| | 合計 | 3.26% | 3.21% | 0.05 | 4/24 | 16.67% |

※問題形式別および全体について、設問ごとの無解答率を平均した数値です。

※網かけは、三重県のほうが全国に比べて無解答率が大ききところを示しています。

※太枠は、問題形式別に見て全ての設問で三重県のほうが全国よりも無解答率が高いところを示しています。

●国語B及び算数Bの記述式問題における平均正答率と平均無解答率との関係●

<国語Bの記述式問題>

| 設問 | 平均正答率 | | | 平均無解答率 | | |
|----|-------|------|------|--------|------|-----|
| | 三重県 | 全国 | 差 | 三重県 | 全国 | 差 |
| 1三 | 35.6 | 34.7 | 0.9 | 4.8 | 4.0 | 0.8 |
| 2二 | 78.2 | 78.4 | -0.2 | 8.1 | 7.0 | 1.1 |
| 2三 | 43.9 | 41.6 | 2.3 | 10.2 | 8.7 | 1.5 |
| 3二 | 65.6 | 66.6 | -1 | 16.0 | 15.1 | 0.9 |
| 平均 | 55.8 | 55.3 | 0.5 | 9.8 | 8.7 | 1.1 |

<児童質問紙 (57) >

| 質問 | | 最後まで 努力した | あきら めた | 書かな かった | その他 | 無回答 |
|---|-----|--------------|-----------|------------|-----|-----|
| 今回の国語の問題について、解答を文章で 書く問題がありましたか、どのように解答 しましたか | 三重県 | 78.2 | 19.0 | 2.1 | 0.4 | 0.3 |
| | 全 国 | 77.7 | 19.7 | 1.9 | 0.4 | 0.3 |
| | 差 | 0.5 | -0.7 | 0.2 | 0.0 | 0.0 |

全ての設問で全国の平均無解答率より高い状況です。

平均正答率では、3問中2問で三重県が全国の平均正答率を上回っており、関連する児童質問紙(57)では、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合が全国の割合より高い状況です。

<算数Bの記述式問題>

| 設問 | 平均正答率 | | | 無解答率 | | |
|-------|-------|------|------|------|------|-----|
| | 三重県 | 全国 | 差 | 三重県 | 全国 | 差 |
| 1 (3) | 26.0 | 27.7 | -1.7 | 15.6 | 14.3 | 1.3 |
| 2 (3) | 48.8 | 51.0 | -2.2 | 13.2 | 12.8 | 0.4 |
| 3 (2) | 45.7 | 49.1 | -3.4 | 20.8 | 18.9 | 1.9 |
| 4 (3) | 20.9 | 22.3 | -1.4 | 17.5 | 15.3 | 2.2 |
| 5 (1) | 12.0 | 12.5 | -0.5 | 22.9 | 21.0 | 1.9 |
| 平均 | 30.7 | 32.5 | -1.8 | 18.0 | 16.5 | 1.5 |

<児童質問紙 (57) >

| 質問 | | 最後まで 努力した | あきら めた | 書かな かった | その他 | 無回答 |
|---|-----|--------------|-----------|------------|-----|-----|
| 今回の算数の問題について、言葉や数、式 を使って、わけや求め方などを書く問題が ありましたが、どのように解答しましたか | 三重県 | 74.7 | 22.5 | 2.0 | 0.5 | 0.4 |
| | 全 国 | 73.3 | 24.0 | 1.9 | 0.4 | 0.4 |
| | 差 | 1.4 | -1.5 | 0.1 | 0.1 | 0.0 |

<学校質問紙 (31) >

| 質問 | | | よく行 った | どちら かとい えば、 行った | あまり 行って いない | 全く行 ってい ない | 無回答 |
|------|---|-----|-----------|--------------------------|-------------------|------------------|------|
| (31) | 調査対象学年の児童に対して、前年度ま でに、各教科等の指導のねらいを明確に した上で、言語活動を適切に位置付けま したか | 三重県 | 23.8 | 63.9 | 12.0 | 0.3 | 0.0 |
| | | 全 国 | 26.9 | 64.8 | 8.1 | 0.0 | 0.1 |
| | | 差 | -3.1 | -0.9 | 3.9 | 0.3 | -0.1 |

<学校質問紙(109)>

| 質問 | | | よくしている | どちらかといえば、している | あまりしていない | 全くしていない | 無回答 |
|-------|--|-----|--------|---------------|----------|---------|------|
| (109) | 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか | 三重県 | 30.5 | 59.9 | 9.6 | 0.0 | 0.0 |
| | | 全国 | 34.4 | 57.2 | 8.2 | 0.1 | 0.1 |
| | | 差 | -3.9 | 2.7 | 1.4 | -0.1 | -0.1 |

「算数B」においては、無解答率は全国より高く、平均正答率は全国より低い結果でした。

児童質問紙では、決して途中であきらめた児童が多いわけではなく、解答意欲の問題ではありません。

「算数B」の記述式の問題を解答できる学力を高めていくことに課題があるということがわかります。

そこで、「算数B」の記述式の問題と関係の深い、言語活動の状況を学校質問紙の国語以外の教科における取組状況について、質問番号(31)(109)を見ると、「各教科等」で「国語科だけではなく」言語活動を「よく」行っている比率が全国よりも3%以上低い状況です。算数における言語活動の在り方の研究を進める必要があります。

第3章 小学校詳細分析～学校質問紙～

1

結果の状況

【関連：第1章P.5～、第6章P.68～】

学校質問紙について、肯定的な回答をした学校の割合と全国の割合との差が5%以上のものについて、成果と課題として以下に挙げます。

全国との比較

【成果】教員研修、調査結果の保護者等への情報共有に注力されています。

| 分類 | 番号 | 質問 | 三重県 | 全国 | 差 |
|-----------------|-------|--|------|------|------|
| 教員研修 | (103) | 授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか（年間11回以上） | 49.0 | 38.5 | 10.5 |
| 調査結果の保護者等への情報共有 | (52) | 平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む） | 96.5 | 88 | 8.5 |
| 地域の人材・施設の活用 | (81) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか | 82.9 | 76.3 | 6.6 |
| コンピュータなどを活用した教育 | (48) | 調査対象学年の児童に対して、前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか（月1回以上） | 52.7 | 46 | 6.7 |
| | (49) | 調査対象学年の児童に対して、前年度に、理科の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか（月1回以上） | 66.6 | 61.5 | 5.1 |

【課題】主体的な学びを引き出す授業づくり、個に応じた指導、理科の指導法に課題が見られます。

| 分類 | 番号 | 質問 | 三重県 | 全国 | 差 |
|-------------|------|---|------|------|-------|
| 地域の人材・施設の活用 | (84) | 調査対象学年の児童に対して、第5学年までの間に自然の中での集団宿泊活動を行いましたか（複数回実施した場合は、最も長期のもの）（2泊3日以上） | 0.8 | 38.9 | -38.1 |
| 個に応じた指導 | (55) | 調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか（年間の授業のうち1/2以上で実施） | 15.3 | 32.4 | -17.1 |
| | (56) | 調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか（年間の授業のうち1/2以上で実施） | 8.0 | 23.4 | -15.4 |
| 理科の指導方法 | (70) | 調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか | 43.9 | 55.8 | -11.9 |
| | (71) | 調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか | 40.3 | 47.2 | -6.9 |
| | (77) | 調査対象学年の児童に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていましたか | 2.4 | 13.2 | -10.8 |
| 家庭学習～理科の指導～ | (98) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか | 77.3 | 84.3 | -7.0 |
| 指導方法・学習規律 | (34) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか | 87.2 | 94.1 | -6.9 |
| | (36) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか | 76.2 | 81.3 | -5.1 |
| | (37) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか | 67.1 | 73 | -5.9 |
| | (39) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか | 76.2 | 85.9 | -9.7 |

指導改善の状況

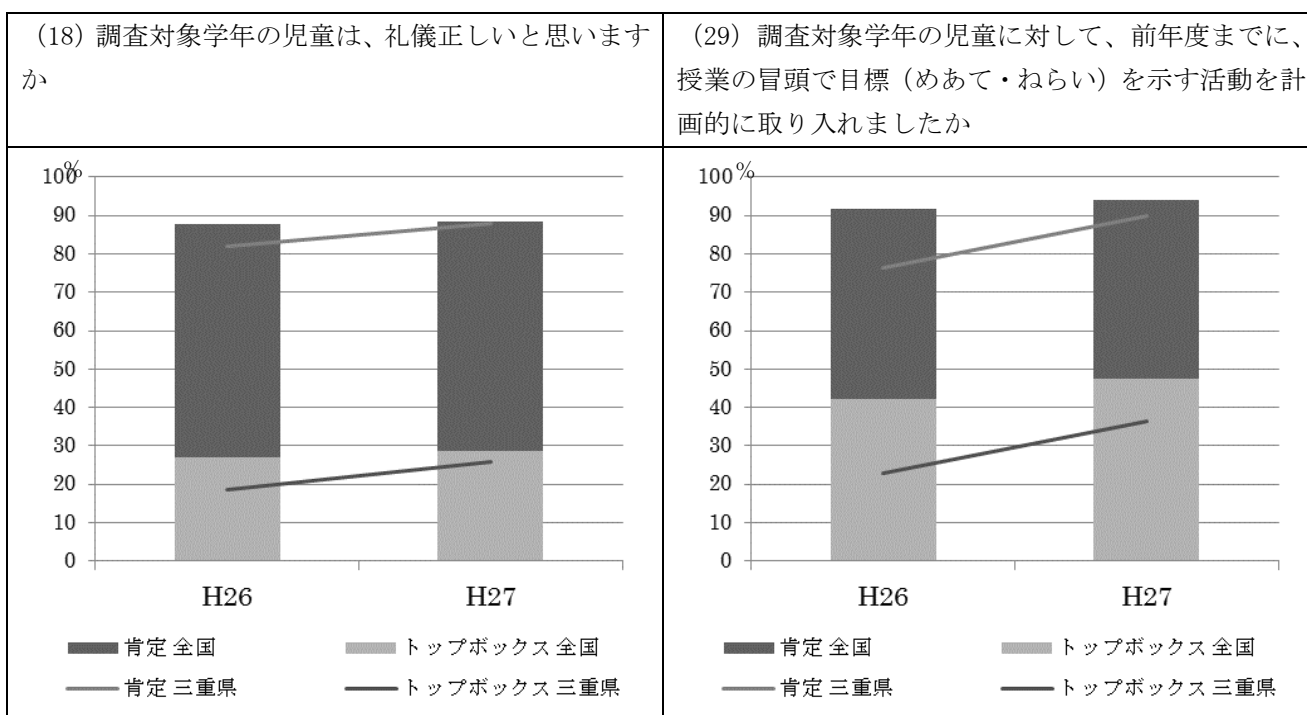
平成26年度と平成27年度の学校質問紙で同じ質問項目の結果を比較し、全体的に小学校でどのような指導改善に注力されているのかを確認します。

特に大きく変化したと考えてよいものとして、次の条件の全てに当てはまる質問を抽出しました。

- 肯定的な回答をした割合が5%以上向上したもの
- 特に力を入れたと考えられる「よく行った」などのトップボックスの割合が5%以上向上したもの
- 肯定的な回答をした割合の全国との差を5%以上縮めたもの
- トップボックスの割合の全国との差を5%以上縮めたもの

ほぼ全ての項目で改善が見られました。

目標（めあて・ねらい）・振り返る活動の設定、全国学力・学習状況調査の保護者等への情報共有、校長の授業の見回りにおいて、大きく改善が見られます。



| | |
|--|---|
| <p>(30) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか</p> | <p>(52) 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)</p> |
| | |
| <p>(54) 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか</p> | <p>(112) 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか(週に2～3日程度以上)</p> |
| | |

◇◇◇調査結果を正面から受け止める◇◇◇

まず、質問番号 (52)、(54) にあるように、全国学力・学習状況調査の結果を正面から受け止めて、自校の状況を保護者や地域の方と共有し、指導改善に活用するという姿勢が全国よりも高くなっています。

また、質問番号 (54) にあるように、地方公共団体独自の学力調査の実施と活用も増えており、第6学年だけでなくもっと学齢の低い段階での状況を把握し、教育指導の改善を図っていこうという機運が高まっています。

◇◇◇学ぶ雰囲気づくり◇◇◇

次に、学習に向かう以前に大切なこととして、児童の基本的な生活態度や学習規律にも大きな変化が見られました。学力向上のためには、前向きな学校生活ができ、その中で授業に集中できることが大切です。

質問番号(18)は礼儀正しさについての質問ですが、そのほかにも、質問番号(17)の「授業中の私語が少なく、落ち着いている」という質問に対する「とてもそう思う」と回答した割合が昨年度と比べ+7.0%、質問番号(16)の「児童は、熱意をもって勉強している」という質問に対する「とてもそう思う」と回答した割合が+9.1%と大きく変化しています。学ぶ雰囲気づくりがより良い形でできてきている状況がうかがえます。

◇◇◇主体的な学び◇◇◇

質問番号(29)の目標の提示、質問番号(30)の振り返る活動の設定について大きく改善しています。授業の始めに目標を明確にし、終了時に学習を振り返ることは、その日の学習事項の把握し、児童自身によるPDC Aサイクルや目標達成動機を高めていくこととなります。このことは、主体的な学び、ひいては生きる力の育成につながっていきます。

これらの項目については、グラフからもわかるように、まだ全国平均の水準まで届いていないのが現状です。また、質問番号(34)の「授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導しましたか」という質問への肯定的な回答率は全国に比べ-6.9%低くなっており、児童への浸透も含めて課題ととらえ、さらなる授業改善が必要です。

◇◇◇校長による授業の見回りが、組織的な取組の第一歩です。◇◇◇

学校を取り巻く課題が複雑化してきており、一人の教員だけでは解決できない状況もあります。そのような中で「学校全体」で課題を共有し、教員がチームとしてその課題を解決していくことはとても重要なことです。

質問番号(112)「校長の授業の見回りについて」は、「ほぼ毎日」見て回ると回答した割合が大きく上昇しています。

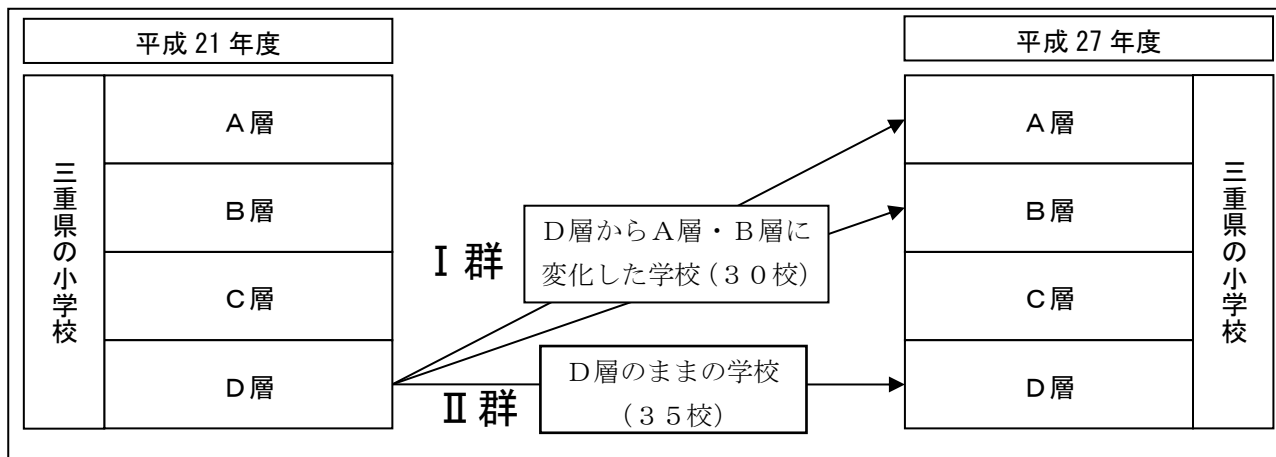
また、全国の小学校では実施頻度に応じて、全教科で平均正答率が高い傾向があります。三重県では、実施頻度は大幅に改善したものの、平均正答率との関連は必ずしも大きくないことから、今後質的充実を図ることが必要です。例えば、指導計画・指導案が見通しを持って立てられているか、指導計画どおりの授業が行われているか、学習規律、目標(めあて・ねらい)・振り返り、板書、説明・指示・発問等の授業マネジメントが適切かなどを自らの目で見て回り、適宜教員とコミュニケーションを取りながら、指導・助言することが大切です。

2 学力向上のための優先課題

【関連：第6章P.74～】

学校においては、個々に置かれた環境が異なり、構成する教職員や児童もそれぞれで異なります。

ここでは、平成21年度と平成27年度の調査結果における教科に関する調査の平均正答率の状況から、小学校を4つの層に分けて、学校質問紙の結果を比較分析します。



分析は、I群の学校質問紙の回答状況で肯定的な回答率が5%以上向上した質問項目を抽出し、それらの質問項目について、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。

下の表は、太枠で囲った列の値の昇順で並べています。

| 番号 | 質問項目 (I群の経年差が5%以上改善した項目を抽出) | I群 | | | II群 | | | I群-II群 |
|-------|---|-------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|
| | | H21 | H27 | 差 | H21 | H27 | 差 | H27 |
| (82) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか | 13.3% | 30.0% | 16.7% | 25.7% | 42.9% | 17.1% | -12.9% |
| (100) | 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか | 86.7% | 96.7% | 10.0% | 88.6% | 100.0% | 11.4% | -3.3% |
| (87) | 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか | 70.0% | 80.0% | 10.0% | 65.7% | 82.9% | 17.1% | -2.9% |
| (65) | 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか | 80.0% | 90.0% | 10.0% | 91.4% | 91.4% | 0.0% | -1.4% |
| (112) | 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか(週2～3回程度以上) | 50.0% | 96.7% | 46.7% | 65.7% | 97.1% | 31.4% | -0.5% |
| (62) | 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか | 83.3% | 93.3% | 10.0% | 88.6% | 91.4% | 2.9% | 1.9% |
| (85) | 職場見学や職場体験活動を行っていますか | 30.0% | 36.7% | 6.7% | 37.1% | 34.3% | -2.9% | 2.4% |
| (29) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか | 83.3% | 100.0% | 16.7% | 94.3% | 97.1% | 2.9% | 2.9% |
| (92) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導しましたか | 90.0% | 100.0% | 10.0% | 100.0% | 97.1% | -2.9% | 2.9% |
| (90) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導しましたか | 90.0% | 100.0% | 10.0% | 100.0% | 94.3% | -5.7% | 5.7% |
| (12) | 調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか | 76.7% | 93.3% | 16.7% | 85.7% | 85.7% | 0.0% | 7.6% |

| | | | | | | | | |
|-------|---|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| (41) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか | 60.0% | 73.3% | 13.3% | 68.6% | 65.7% | -2.9% | 7.6% |
| (105) | 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力していますか | 90.0% | 96.7% | 6.7% | 94.3% | 88.6% | -5.7% | 8.1% |
| (11) | 調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか | 86.7% | 96.7% | 10.0% | 82.9% | 85.7% | 2.9% | 11.0% |
| (40) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか | 6.7% | 20.0% | 13.3% | 11.4% | 8.6% | -2.9% | 11.4% |
| (25) | 調査対象学年の児童に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか（学期に数回程度以上） | 50.0% | 83.3% | 33.3% | 74.3% | 71.4% | -2.9% | 11.9% |
| (81) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか | 66.7% | 86.7% | 20.0% | 57.1% | 68.6% | 11.4% | 18.1% |
| (24) | 調査対象学年の児童に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか（週に複数回以上） | 80.0% | 93.3% | 13.3% | 74.3% | 74.3% | 0.0% | 19.0% |
| (61) | 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか | 83.3% | 96.7% | 13.3% | 77.1% | 74.3% | -2.9% | 22.4% |
| (67) | 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか | 43.3% | 80.0% | 36.7% | 51.4% | 57.1% | 5.7% | 22.9% |
| (60) | 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか | 33.3% | 50.0% | 16.7% | 22.9% | 20.0% | -2.9% | 30.0% |
| (66) | 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか | 26.7% | 63.3% | 36.7% | 40.0% | 31.4% | -8.6% | 31.9% |
| (39) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか | 76.7% | 90.0% | 13.3% | 80.0% | 51.4% | -28.6% | 38.6% |

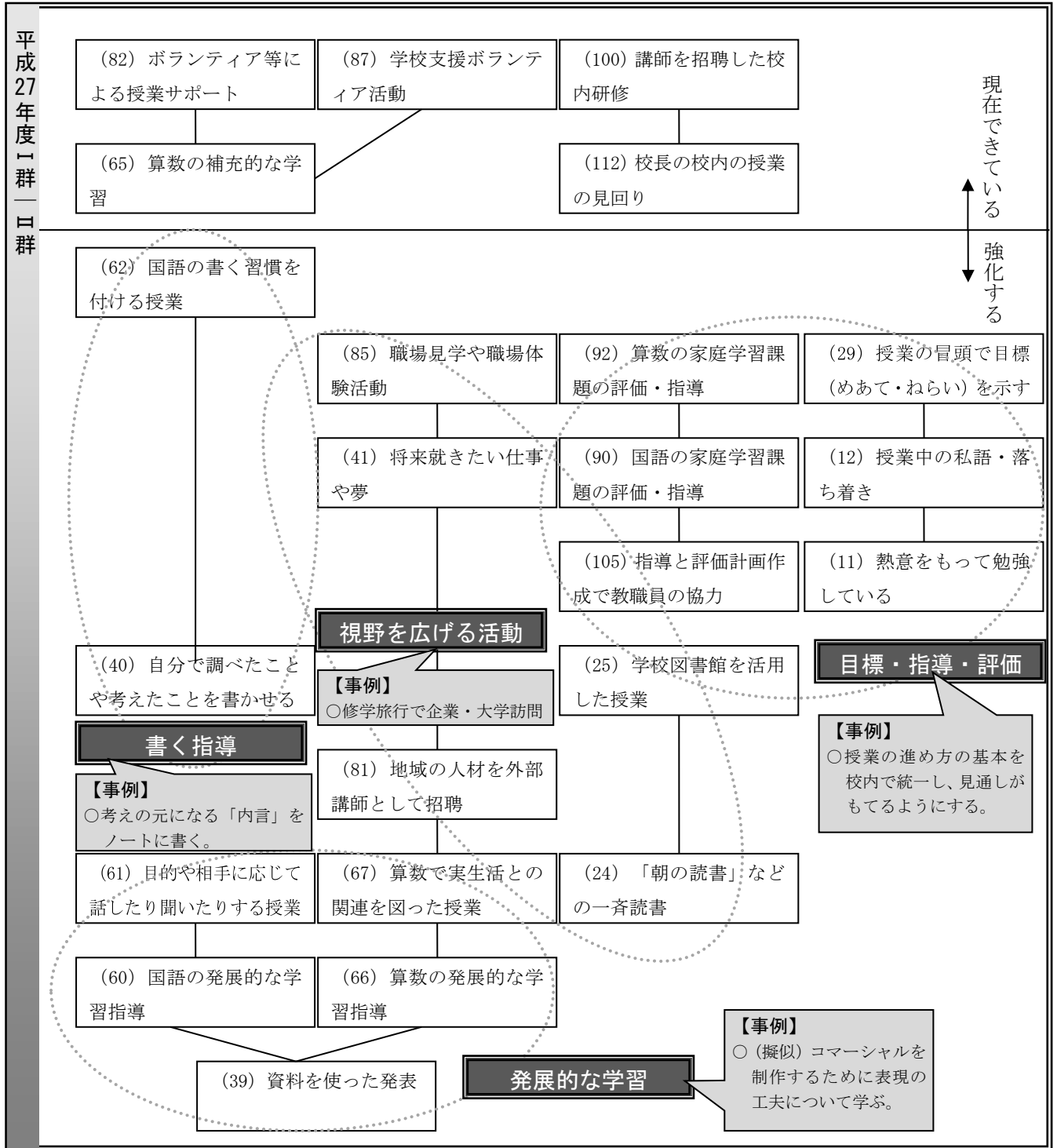
《結果より》

I群とII群との間で取組の差が大きかった（I群で効果が大きかった）と考えられる項目

- ・資料を使って発表ができるよう指導
- ・発展的な学習の指導（国語、算数）
- ・実生活における事象との関連を図った授業（算数）
- ・目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業（国語）
- ・一斉読書の時間の設定（朝の読書など）
- ・地域の人材を外部講師として招聘した授業
- ・学校図書館を活用した授業
- ・自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導 等

これらの項目は、授業における児童の主体的な学習の実現に向けて、取り組んでいく優先課題の設定の参考になります。自校の状況、児童の状況に応じて、取組の内容を選択し、組織的・継続的な取組とすることが大切です。

●項目数が多く、表では全体像をつかみにくいので、図でまとめました



前出の表の質問項目を要約したボックスをほぼ同様の並びで縦に並べ、関連する項目を線でつなぐと、

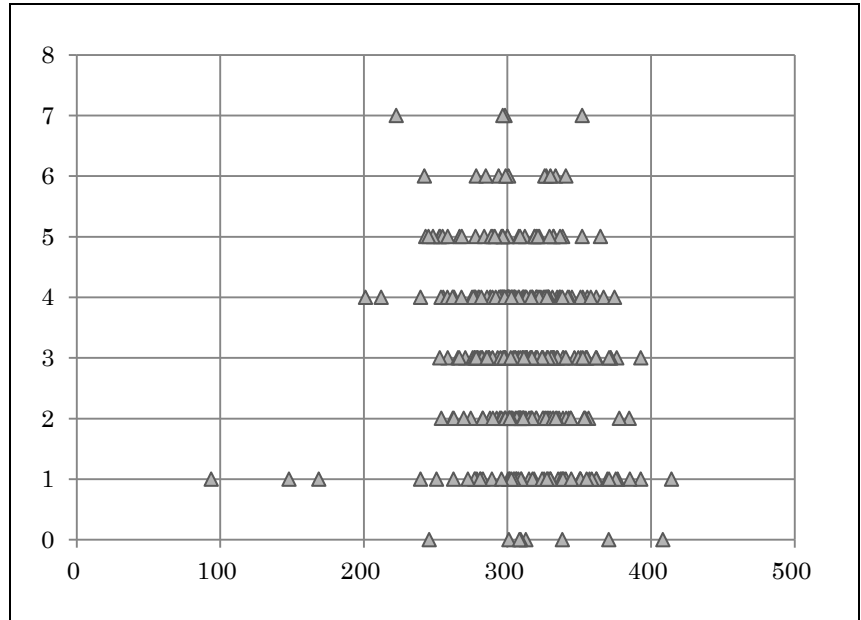
- 家庭学習も含めた指導と評価の一体化、目標の共有による授業への集中
- 一定のスキルが必要である「書くこと」の指導の強化
- さまざまなことに興味関心を抱けるよう視野を広げる活動
- 発展的な学習、話し合う活動や資料等を使った発表等の授業の設定

というポイントが見えてきます。現在できている補充的な学習など基礎基本を重視した指導も大切ですが、併せて上位層を伸ばす発展的な学習や活用しながら習得に戻るような指導も大切です。また、書く指導は、まずは「習慣」化していくことから始め、その後、「考え」を記述させる、という段階的な指導がよく行われています。

就学援助を受けている児童の在籍状況と、学力との関係を見るために、県内の各小学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

<選択肢>

- 1 在籍していない
- 2 5%未満
- 3 5%以上、10%未満
- 4 10%以上、20%未満
- 5 20%以上、30%未満
- 6 30%以上、50%未満
- 7 50%以上
- 0 無回答・不明



今回の調査では、就学援助を受けている児童の在籍数と平均正答率の合計との間には、明確な関係性は見られませんでした。

しかしながら、そうした中で、就学援助を受けている児童の在籍数が同じような状況の学校の中にも平均正答率が高い学校とそうでない学校があります。それらの学校の指導の違いを学校質問紙から探ってみます。

児童の20%以上が就学援助を受けている学校（選択肢5～7を選択）は26校あり、そのうち、国語A・国語B・算数A・算数B・理科の合計が全国平均を超えている学校が4校ありました。これらをI群とし、26校の中で平均正答率の合計が低い方の4校をII群とします。

I群とII群の学校質問紙の回答状況の差がある質問を抽出し、同様の環境の中でどのような指導の違いがあるのかを見ると、教員研修、言語活動・主体的な学習、学習規律、読書指導、授業の振り返り等に差異があることがわかります。

(数字は選択肢)

| 番号 | 質問項目 | 群 | 回答状況 | | | |
|-------|--|-----|------|---|---|---|
| (103) | 授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか | I群 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| | | II群 | 6 | 5 | 1 | 7 |
| (37) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか | I群 | 2 | 1 | 2 | 1 |
| | | II群 | 3 | 3 | 3 | 2 |

第3章 小学校詳細分析～学校質問紙～

| | | | | | | |
|----------------|--|------|-------|-------|-------|-------|
| (44) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか | I 群 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | II 群 | 2 | 2 | 3 | 2 |
| (95) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数共通） | I 群 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| | | II 群 | 4 | 2 | 3 | 3 |
| (17) | 調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか | I 群 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| | | II 群 | 2 | 3 | 4 | 1 |
| (25) | 調査対象学年の児童に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか | I 群 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| | | II 群 | 2 | 2 | 5 | 5 |
| (95) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか | I 群 | 1 | 3 | 1 | 1 |
| | | II 群 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| (36) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか | I 群 | 2 | 1 | 2 | 1 |
| | | II 群 | 2 | 3 | 3 | 2 |
| (38) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか | I 群 | 2 | 1 | 2 | 2 |
| | | II 群 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| (39) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか | I 群 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | | II 群 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| (97) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか | I 群 | 2 | 3 | 2 | 2 |
| | | II 群 | 4 | 3 | 3 | 3 |
| 5教科区分の平均正答率の合計 | | I 群 | 319.2 | 320.3 | 330 | 336.8 |
| | | II 群 | 242.2 | 243.2 | 245.2 | 253.2 |

4

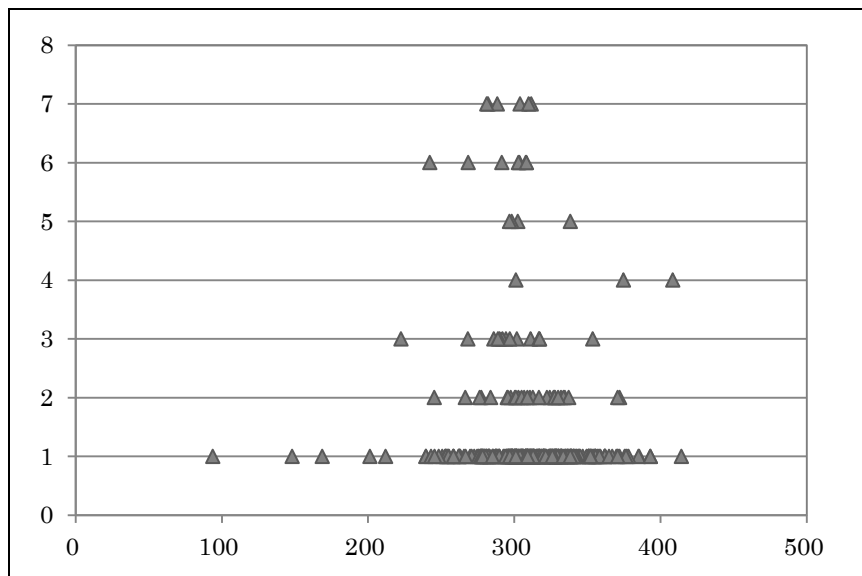
日本語指導が必要な児童の在籍数との関係について

【関連：第6章P.80～、第10章P.123】

日本語指導が必要な児童の在籍状況と、学力との関係を見るために、県内の各小学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

<選択肢>

- 1 在籍していない
- 2 1人
- 3 2人
- 4 3人
- 5 4人
- 6 5～7人
- 7 8人以上
- 0 無回答不明



日本語指導が必要な児童の在籍数と平均正答率の合計との間には、明確な関係性は見られません。

しかしながら、そうした中で、日本語指導が必要な児童の在籍数が同じような状況の学校の中にも平均正答率が高い学校とそうでない学校があります。それらの学校の指導の違いを学校質問紙から探ってみます。

複数名の日本語指導が必要な児童がいる学校（選択肢3～7を選択）は33校あり、そのうち、国語A・国語B・算数A・算数B・理科の合計が全国平均を超えている学校が6校ありました。これらをI群とし、33校の中で平均正答率の合計が低い方の6校をII群とします。

I群とII群の学校質問紙の回答状況の差がある質問を抽出し、同様の環境の中でどのような指導の違いがあるのかを見ると、読書指導、地域との関わり、きめ細かい家庭学習指導、教員研修の在り方等に差異があることがわかります。

(数字は選択肢)

| 番号 | 質問 | 群 | 回答状況 | | | | | |
|------|---|-----|------|---|---|---|---|---|
| | | | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| (24) | 調査対象学年の児童に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか | I群 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| | | II群 | 5 | 1 | 5 | 3 | 2 | 3 |
| (81) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか | I群 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| | | II群 | 2 | 2 | 4 | 2 | 3 | 2 |
| (95) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数共通） | I群 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 |
| | | II群 | 1 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 |

第3章 小学校詳細分析～学校質問紙～

| | | | | | | | | |
|----------------|---|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| (96) | 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語/算数共通) | I群 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| | | II群 | 1 | 2 | 4 | 2 | 2 | 2 |
| (88) | 保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか | I群 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 |
| | | II群 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 |
| (101) | 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか | I群 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | II群 | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 |
| (104) | 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか | I群 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 |
| | | II群 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 |
| 5教科区分の平均正答率の合計 | | I群 | 316.9 | 317.2 | 338.4 | 353.7 | 374.7 | 408.4 |
| | | II群 | 222.6 | 242.2 | 268.2 | 268.4 | 281.2 | 282.0 |

第4章 小学校詳細分析～児童質問紙～

1

児童質問紙と教科に関する調査との関連

【関連：第1章P.5～、第7章P.82～】

「全国学力・学習状況調査結果チャート[児童生徒]」の領域名を基本に分類しています。
各領域では、教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目について以下に分析します。

◆◆国語への関心◆◆

「理由がわかるように書く」ということを常に意識できるような指導が大切です。

【関連項目】

| 番号 | 質問 |
|------|---|
| (50) | 国語の授業の内容はよく分かりますか |
| (55) | 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか |

よく言われるように国語の力は全ての教科の基礎であり、質問番号(50)は全ての教科において関連が見られます。

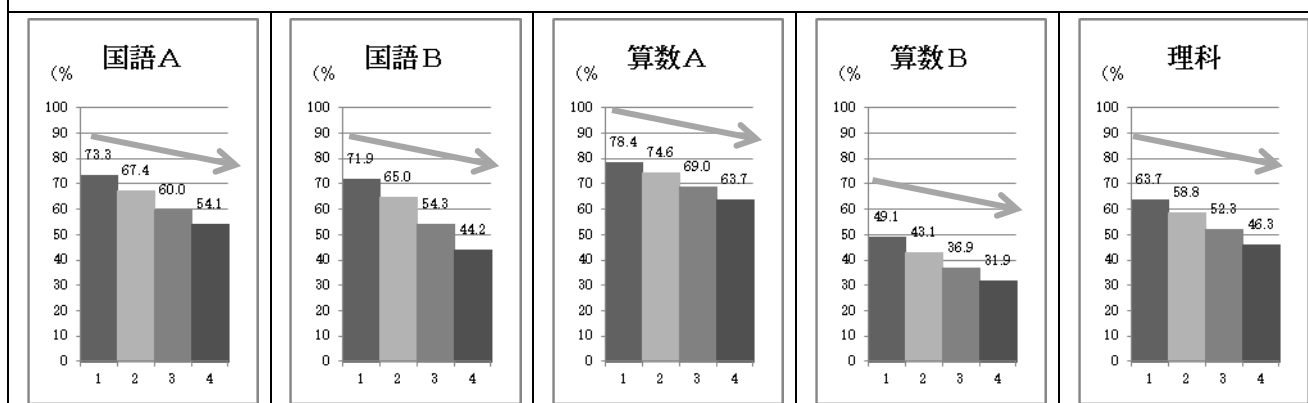
また、質問番号(55)は、「判断してその理由を書くような問題」を解決できるような学習・練習ができていないかを聞いているもので、全教科に関連があり、「国語B」との関連が顕著に出ています。

理由を挙げて書く場合、「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためである。」などの表現についても指導する必要があります。また、普段から、理由や事例などを挙げながら、筋道を立てて話すことを意識させることも大切です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

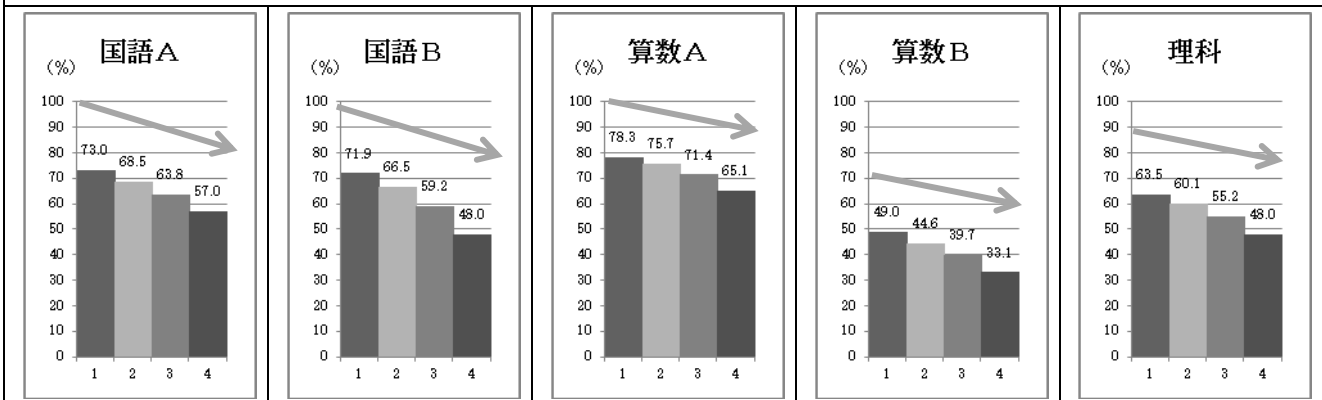
(50) 国語の授業の内容はよく分かりますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(55) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆算数への関心◆◆

「わけ」を考え、理解することと、答えを導くプロセスが大切です。

【関連項目】

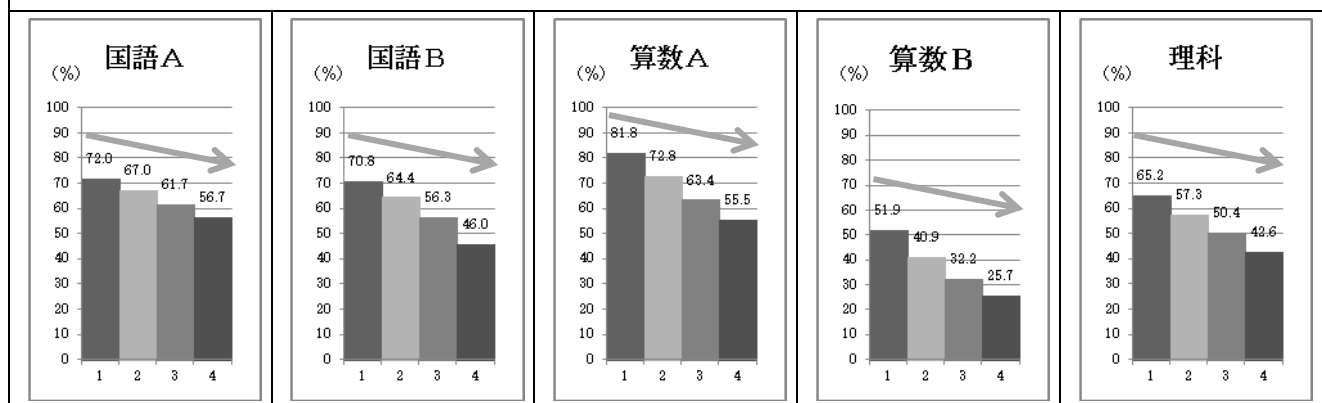
| 番号 | 質問 |
|------|--------------------------------------|
| (60) | 算数の授業の内容はよく分かりますか |
| (66) | 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか |
| (67) | 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか |

算数科の学習では根拠を明らかにして論理的に考える力や課題を解決するためのプロセスを組み立て、実行する力を養っているという認識をもって指導し、そのことが児童にも伝わるような工夫が必要です。これらの力は国語科とも共通しており、他教科との関連も深くなっています。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

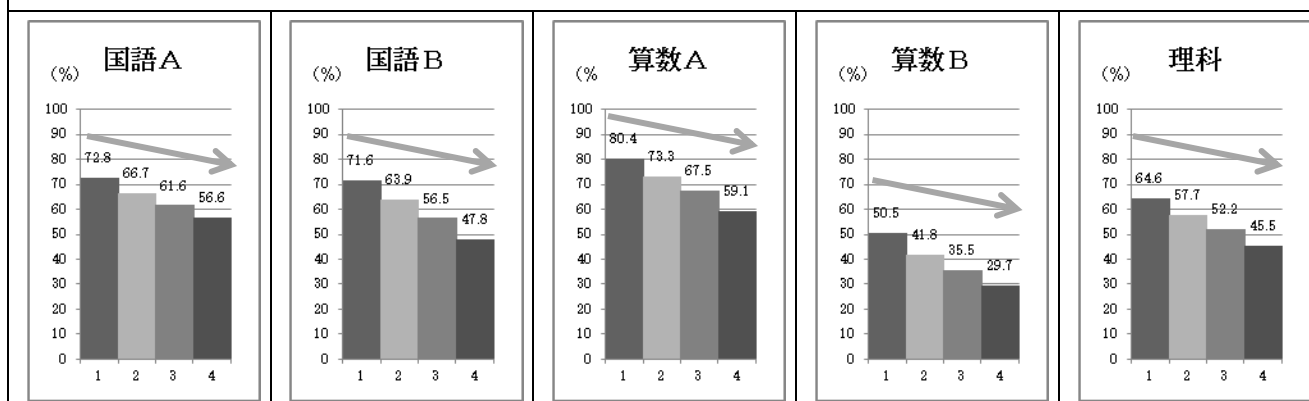
(60) 算数の授業の内容はよく分かりますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



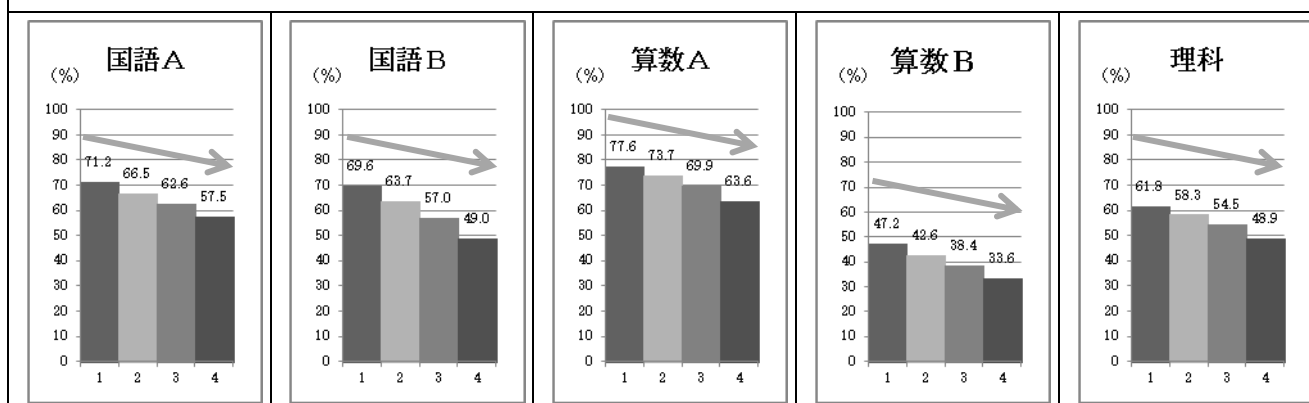
(66) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(67) 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆理科への関心◆◆

理科の授業で観察、実験を通して自分の考えを説明する場面をつくりましょう。

【関連項目】

| 番号 | 質問 |
|------|---|
| (80) | 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか |
| (76) | 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか |
| (79) | 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか |

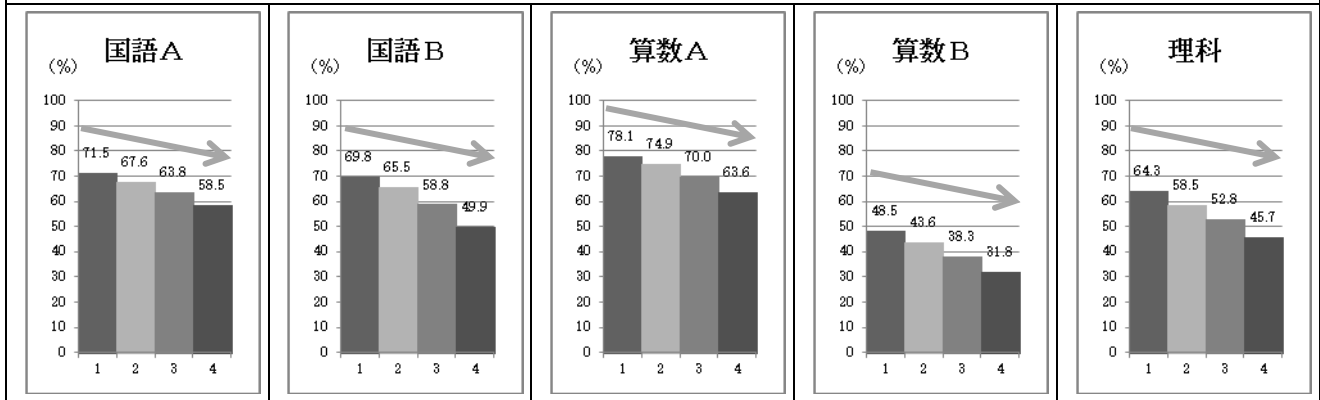
質問番号(80)と平均正答率との関連から、観察・実験を通じて考察する力が「国語B」や「算数B」と関連していることがわかります。

観察・実験では、事前の仮説、方法、結果、考察をできるだけ個人個人が考えたうえでノートに書くようにし、それを相互に発表し、考え方を学び合える場をつくるのが大切です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

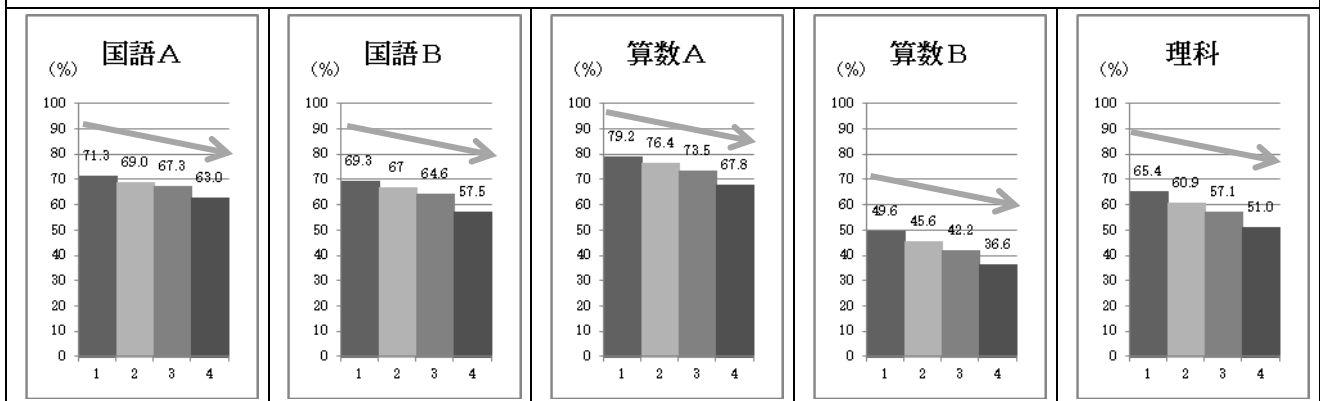
(80) 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



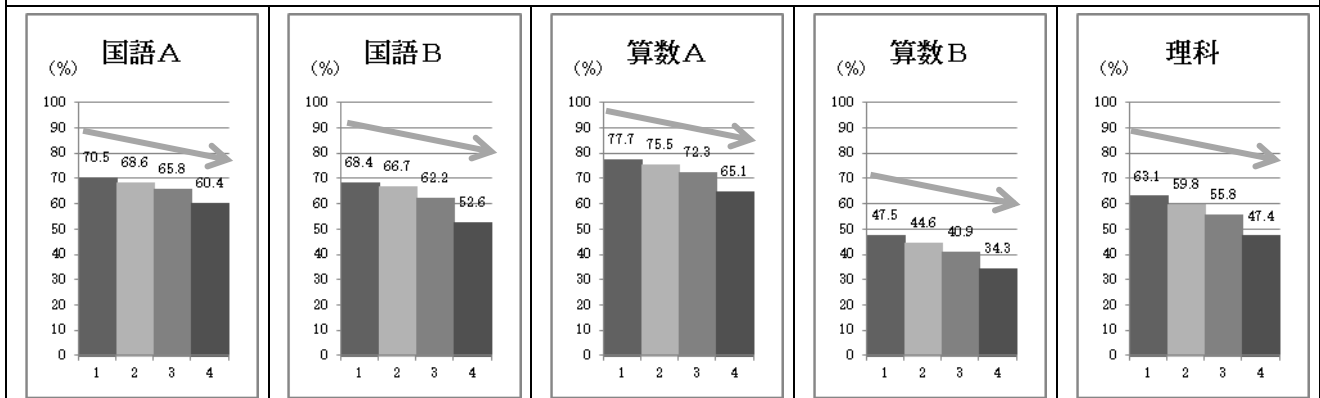
(76) 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(79) 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆学校での学び◆◆

授業の「めあて」の理解は全体の学力に、「振り返り」は特に下位層に影響しています。

【関連項目】

| 番号 | 質問 |
|------|--|
| (41) | 5年生までに受けた授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか |
| (43) | 5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか |
| (42) | 5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか |

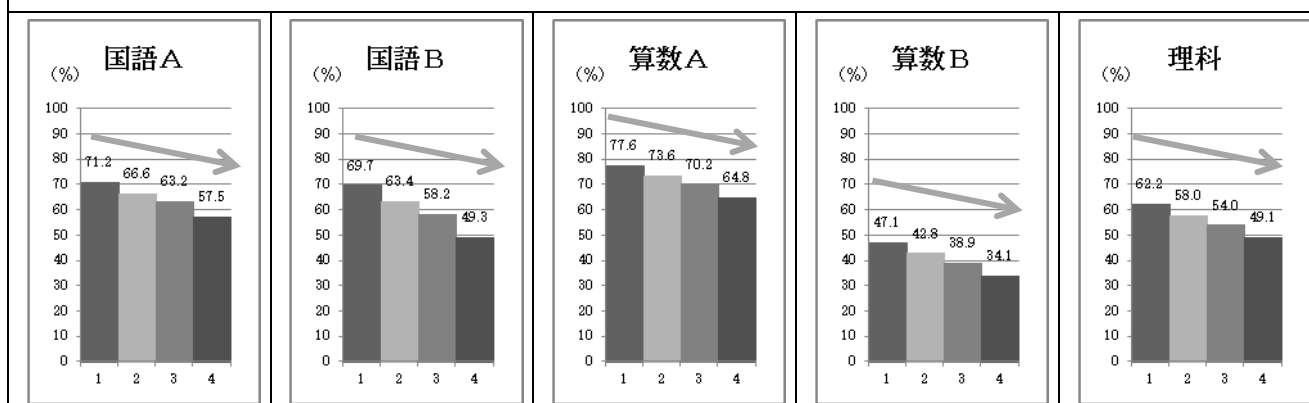
授業の目標（めあて・ねらい）が示されていたか、ノートに書いたか、という質問番号（41）と（43）と平均正答率の関係は、どの教科とも関連が見られます。

一方、質問番号（42）の振り返る活動については、「当てはまらない」と答えた児童の平均正答率がやや目立って低くなっています。振り返りシートを配って書かせるだけでなく、振り返り方や振り返る内容を個別に指導することが必要な児童もいます。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

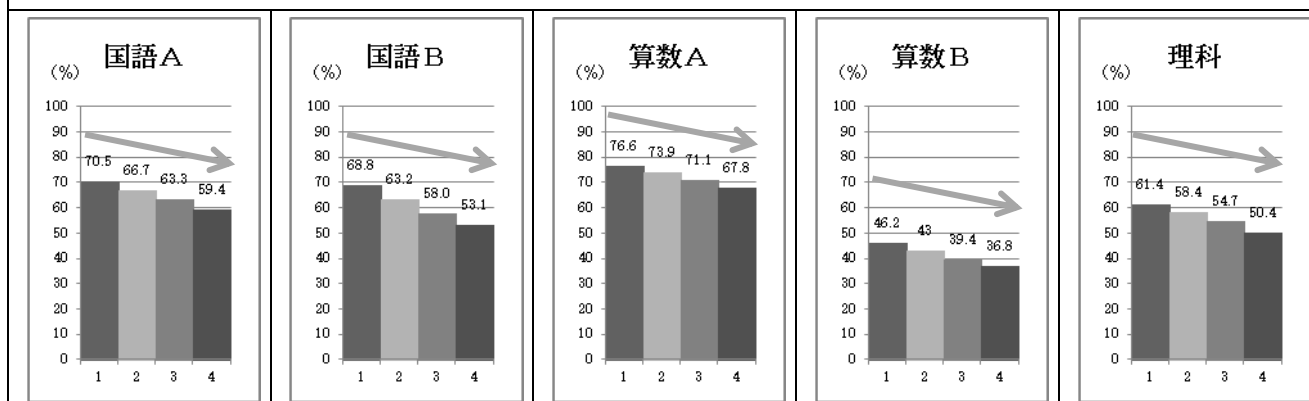
(41) 5年生までに受けた授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



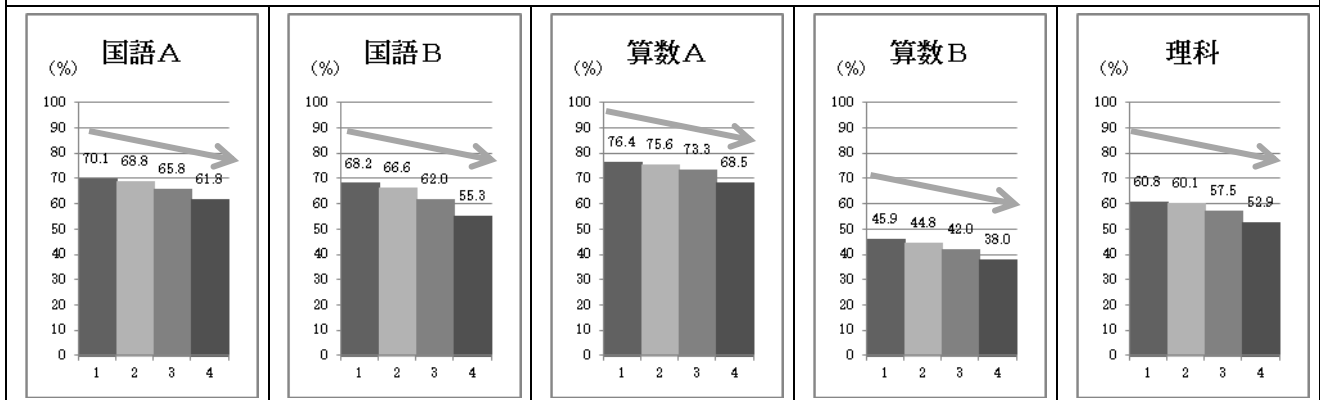
(43) 5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(42) 5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆総合的な学習への関心◆◆

社会で求められる力と小学校で培う力の関連の可視化と主体的な学び方の獲得が大切です。

【関連項目】

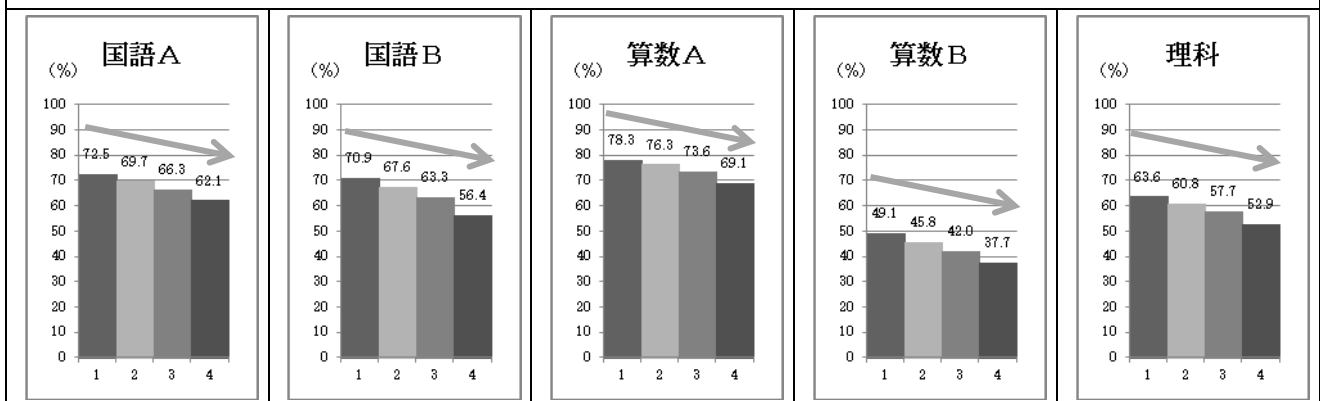
| 番号 | 質問 |
|------|--|
| (37) | 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか |
| (36) | 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか |

学校は子どもたちに力を付けて社会に送り出していく所です。「総合的な学習の時間」の中で社会で求められるどのような力をつけるのか、その力をつけるためにどのような活動を行うのかを明確にする必要があります。次期学習指導要領では、この考え方が各教科等にも広がっていき、どの教科でどのような力をつけるのかを明確にしていく方向で検討されています。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

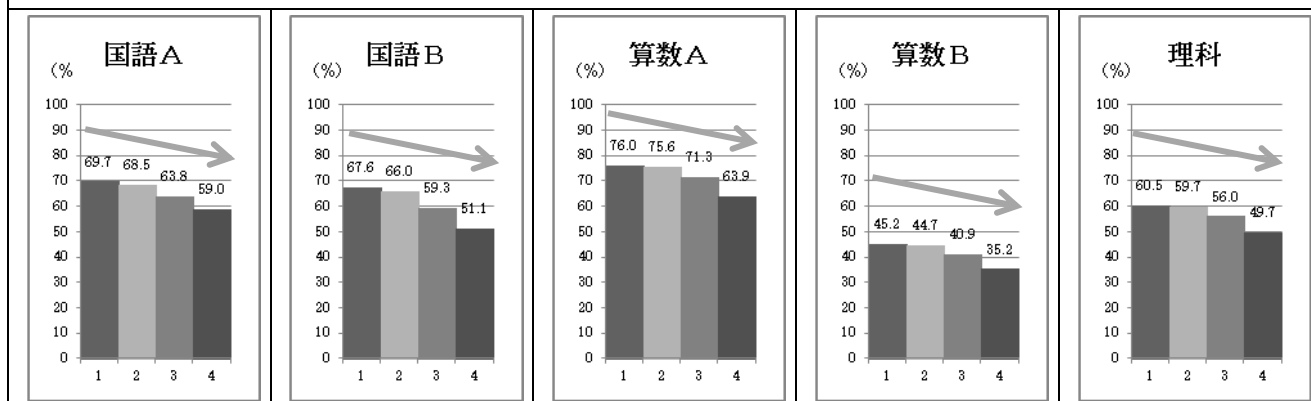
(37) 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(36) 「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆規範意識◆◆

規範意識は「国語B」との関連が見られます。

【関連項目】

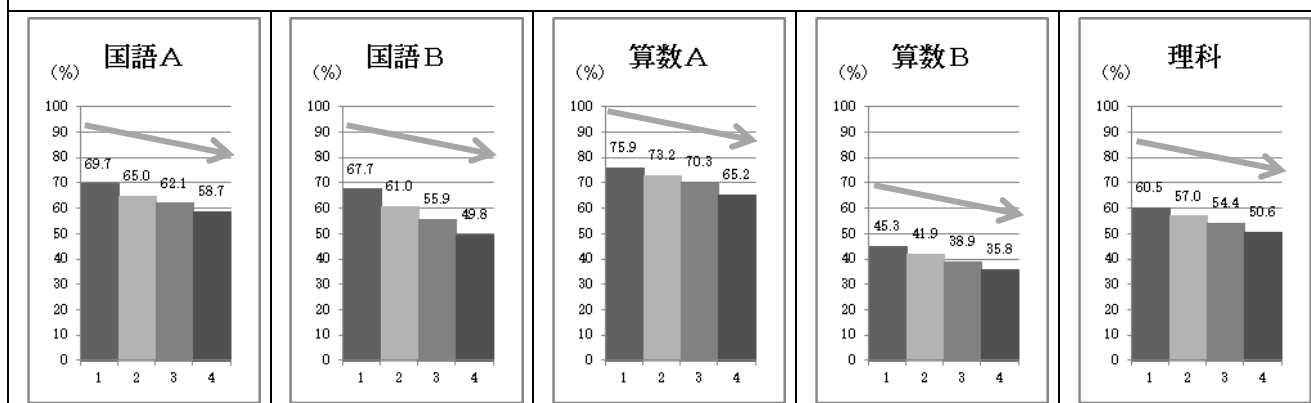
| 番号 | 質問 |
|------|------------------------------|
| (33) | 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか |
| (35) | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか |
| (34) | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか |

質問番号 (33)、(35)、(34) いずれも「国語B」との関連が最も顕著です。論理的に考え、相手の言葉を受け止め、伝え合う言葉をもつことが規範意識にも影響しています。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

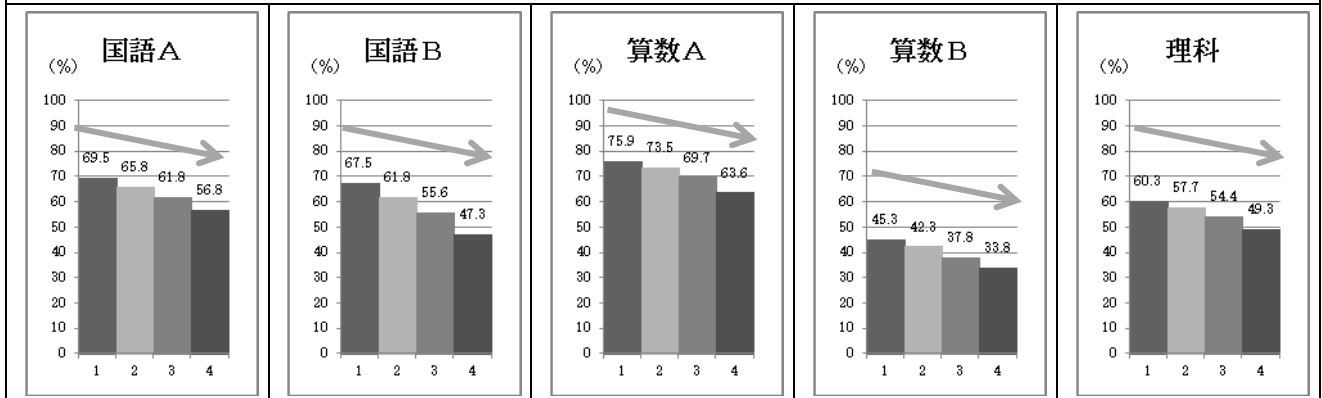
(33) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



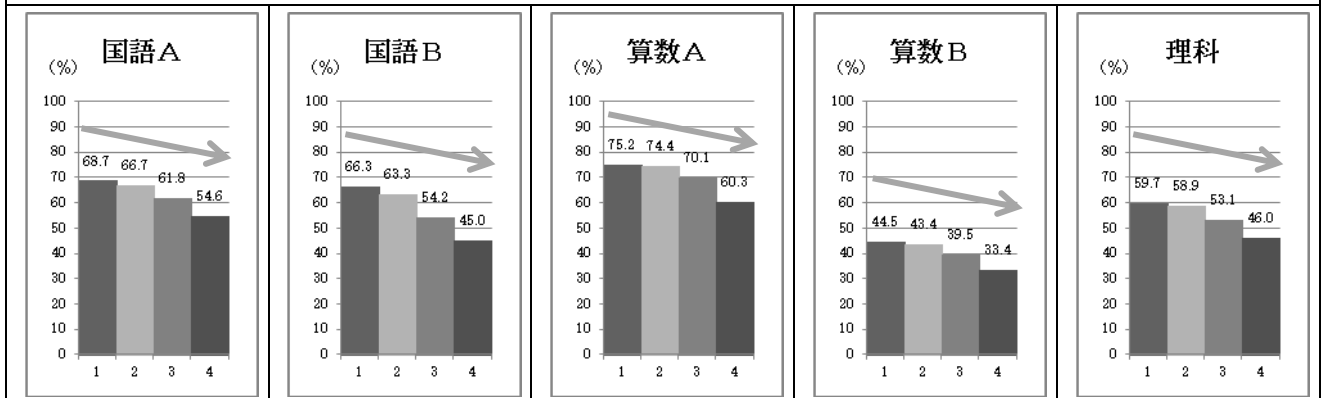
(35) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(34) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆自尊感情◆◆

全員が自己肯定感を持てるようなしかけづくりが大切です。

【関連項目】

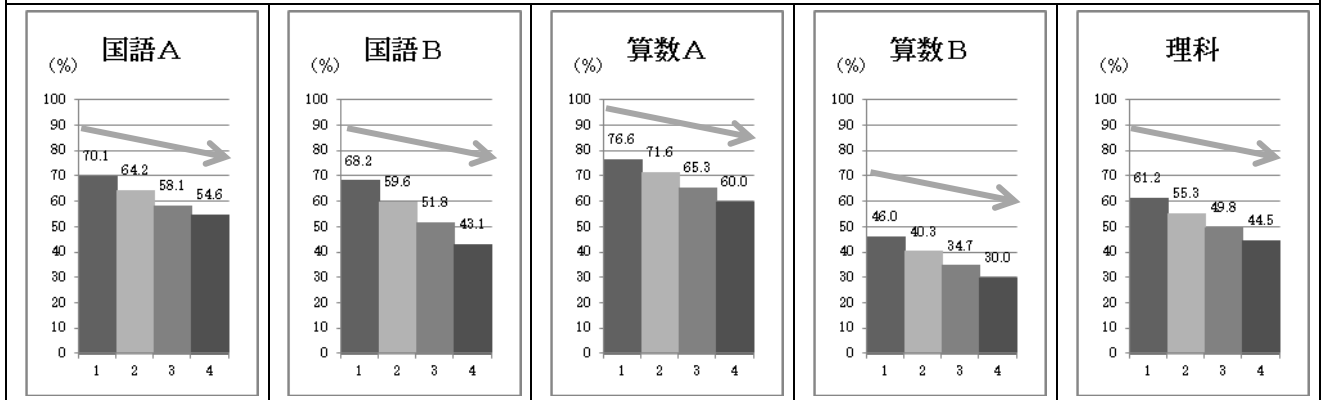
| 番号 | 質問 |
|-----|-------------------------------|
| (4) | ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか |
| (6) | 自分には、よいところがあると思いますか |
| (5) | 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか |

質問番号(4)については全体的に平均正答率との関連が見られます。しかし質問番号(6)、(5)は選択肢1～3ではあまり差がなく、選択肢4を選んだ児童の平均正答率が他を選んだ児童よりも低くなっています。全体としての自尊感情を高めることも大切ですが、一部の児童については、個に応じた指導等が必要です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

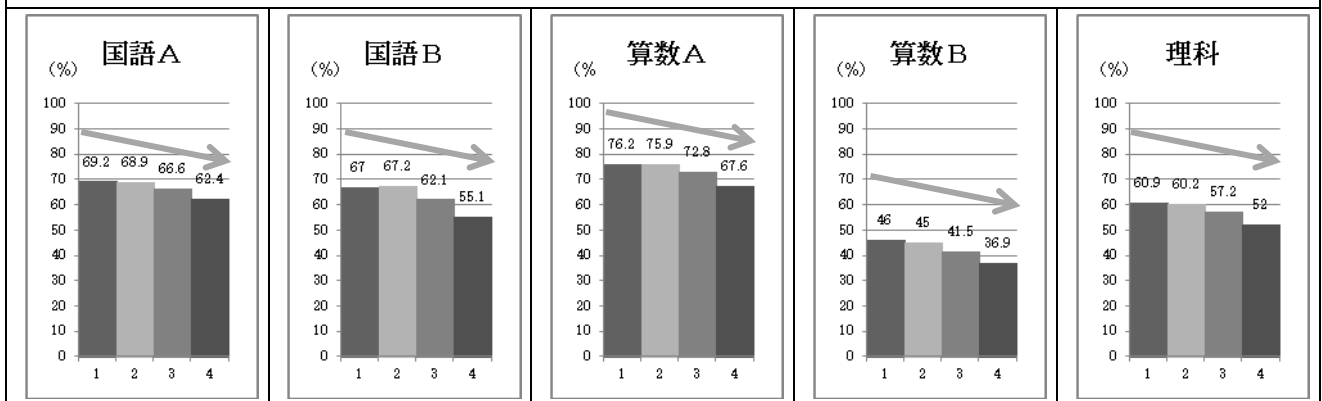
(4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



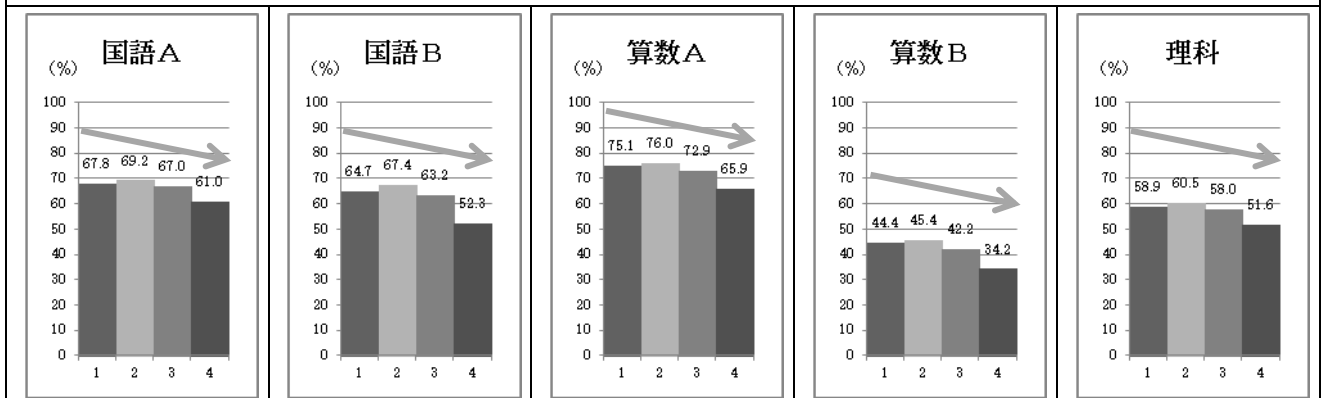
(6) 自分には、よいところがあると思いますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(5) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

(1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆言語活動・読解力◆◆

「自分の考えを発表する機会」の有無はどの教科とも関連しています。

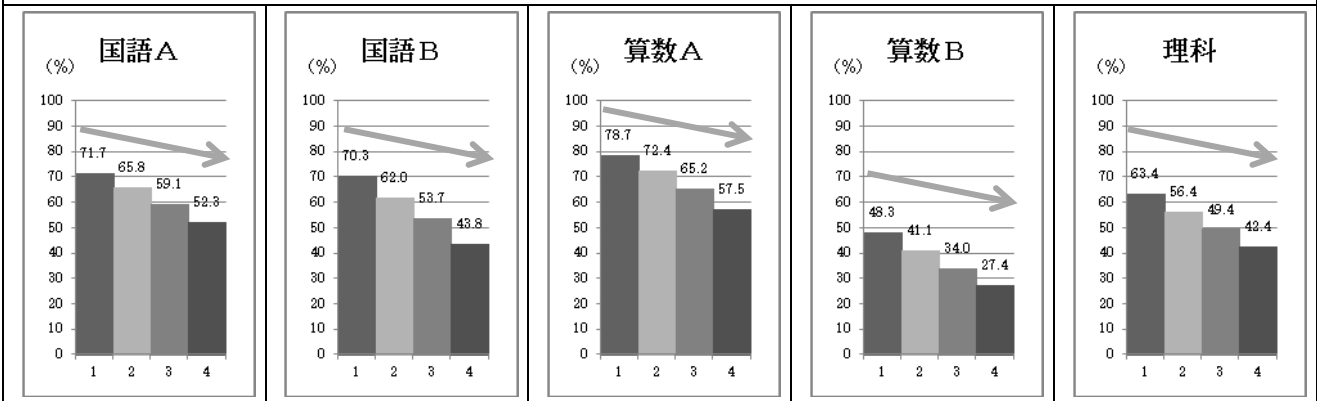
【関連項目】

| 番号 | 質問 |
|------|--|
| (38) | 5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか |
| (7) | 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか |

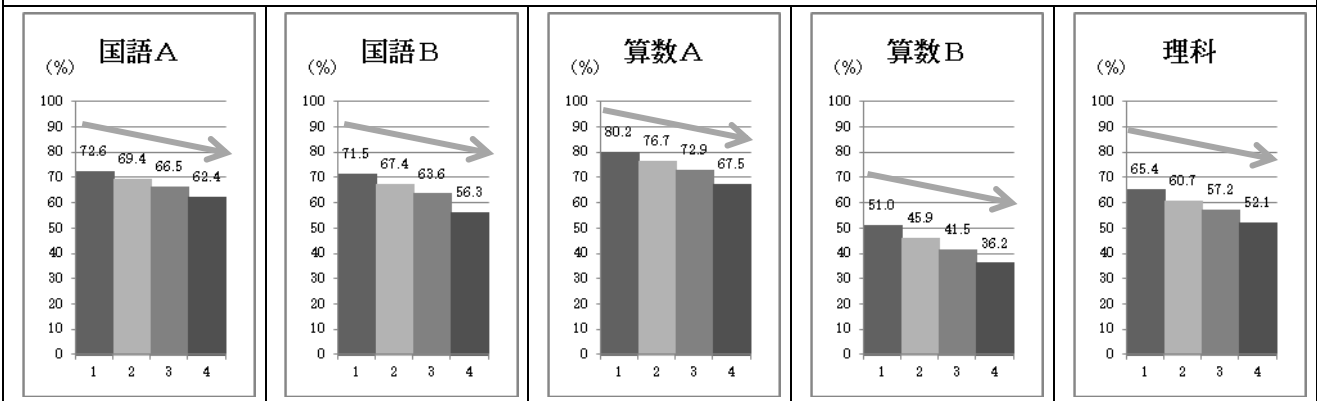
質問番号(38)はどの教科とも関連が深く、「発表の指導をした」ではなく個々の児童が発表する機会が与えられていたか、という観点での見直しも必要です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

(38) 5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか
 (1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



(7) 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか
 (1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない)



◆◆学習習慣1◆◆

まずは宿題、そして自分で計画を立てて復習をできるようにすることが重要です。

【関連項目】

| 番号 | 質問 |
|------|-----------------------|
| (21) | 家で、学校の宿題をしていますか |
| (22) | 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか |
| (23) | 家で、学校の授業の復習をしていますか |
| (22) | 家で、学校の授業の予習をしていますか |

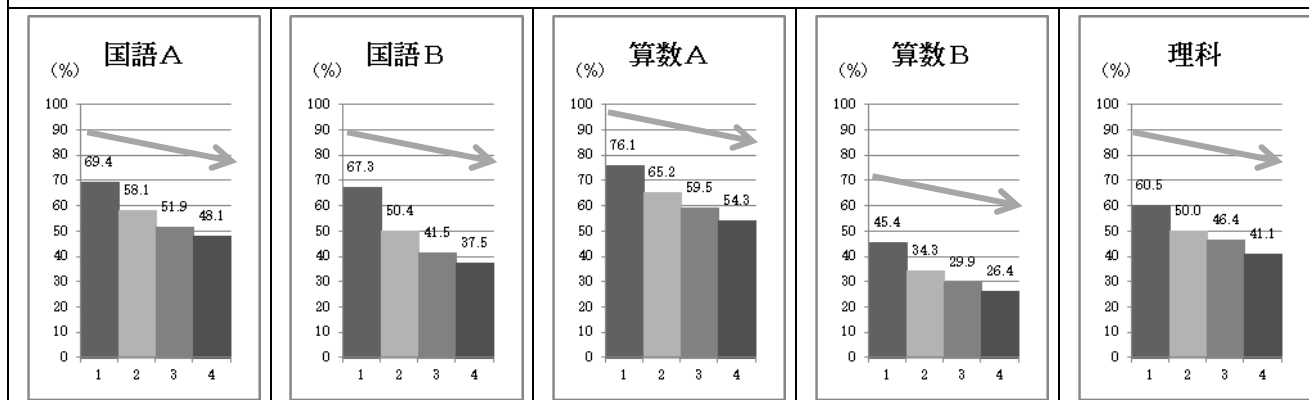
質問番号(21)の宿題については、選んだ選択肢によるはっきりとした段差がついています。まずは宿題をきちんとやるのが大切です。放課後の学校施設の利用等、政策としてこの課題を解決しようとしている自治体も増えています。

質問番号(20)の学習計画と質問番号(23)の復習は同じような傾向を示しています。最初から自主性を発揮することはできません。自主的な復習とは何をどうすればよいのか、その方法を教え、実行できる支援をしながら徐々に「自主」へと導いていくことが大切です。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

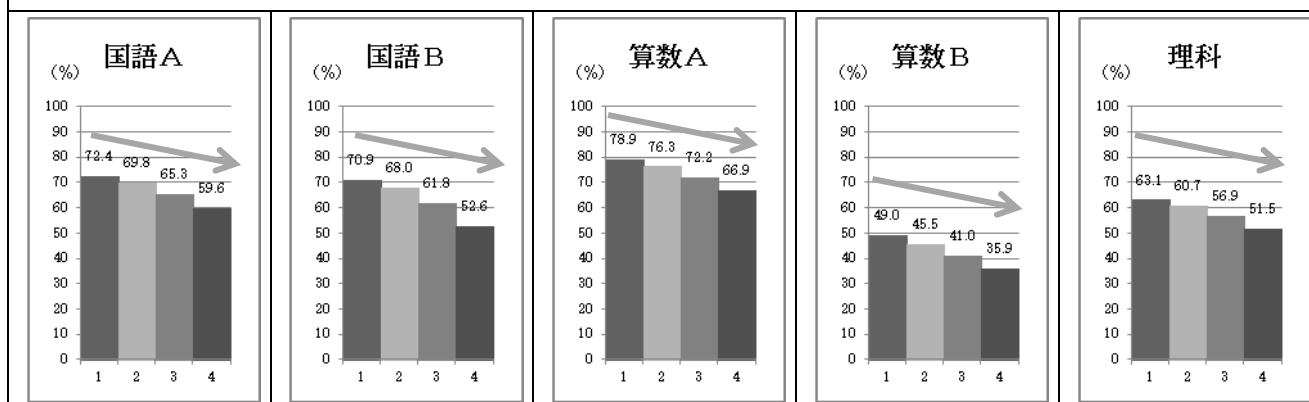
(21) 家で、学校の宿題をしていますか

(1) している (2) どちらかといえば、している (3) あまりしていない (4) 全くしていない



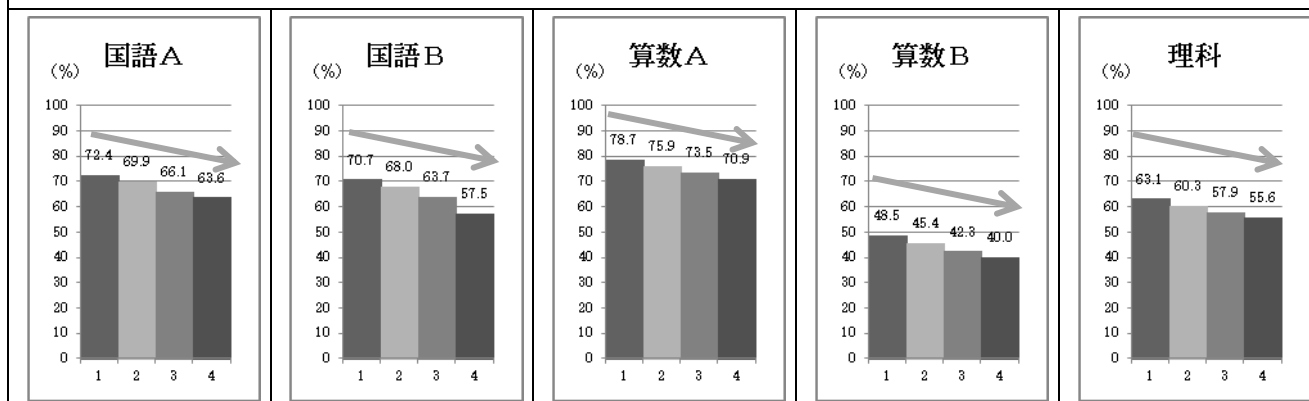
(20) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

(1) している (2) どちらかといえば、している (3) あまりしていない (4) 全くしていない



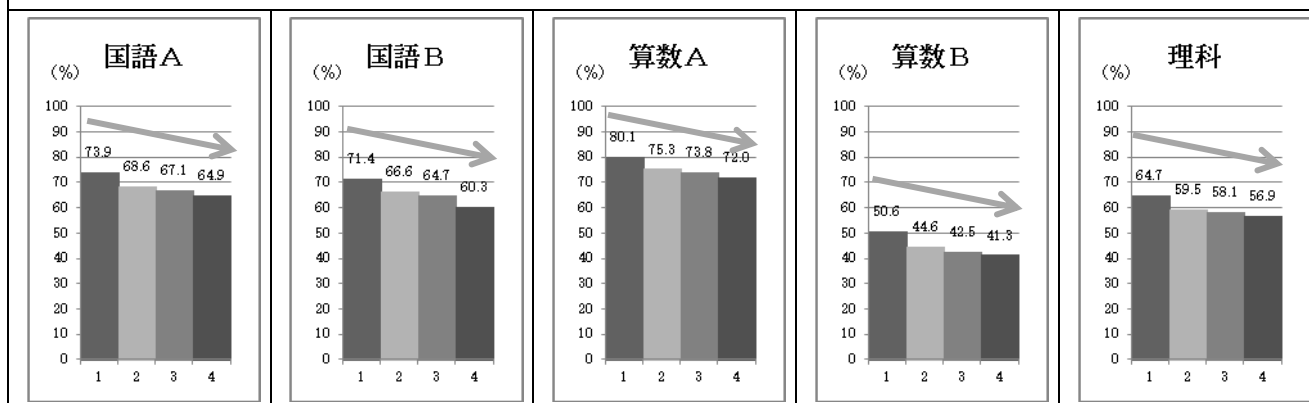
(23) 家で、学校の授業の復習をしていますか

(1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない)



(22) 家で、学校の授業の予習をしていますか

(1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない)



◆◆学習習慣2◆◆

土日も含めた家庭学習の促進と各家庭でのルールづくりについて会話をすることが大切です。

【関連項目】

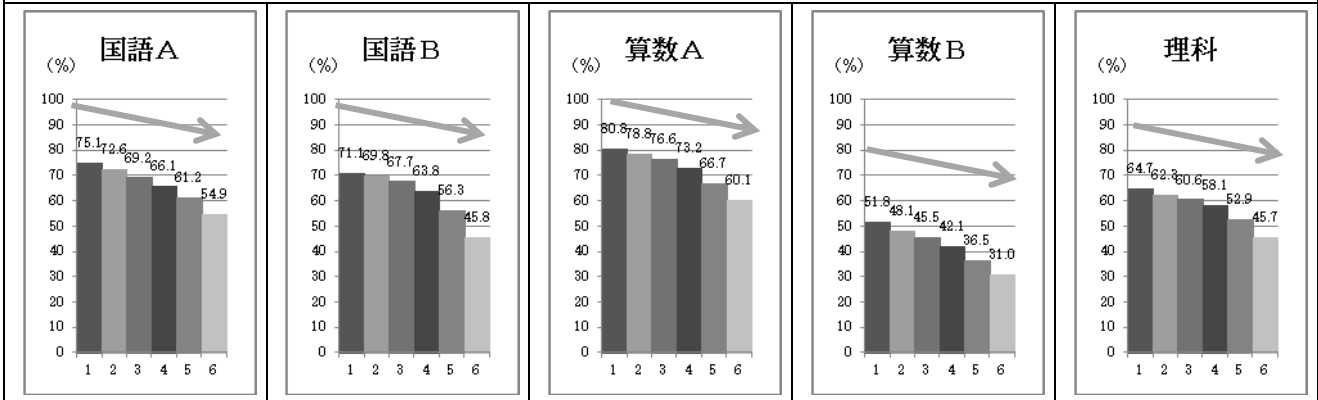
| 番号 | 質問 |
|------|---|
| (13) | 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） |
| (14) | 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） |
| (12) | 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く） |
| (11) | 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか |

家庭での時間の使い方は学校だけでは解決できない課題です。家庭への協力を求めるとともに、協力を求める際にも、自治体や学校が規則を決めて「守らせる」というやり方だけではなく、親子が話し合って自らルールをつくり、それを守る、という方法が増えてきています。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

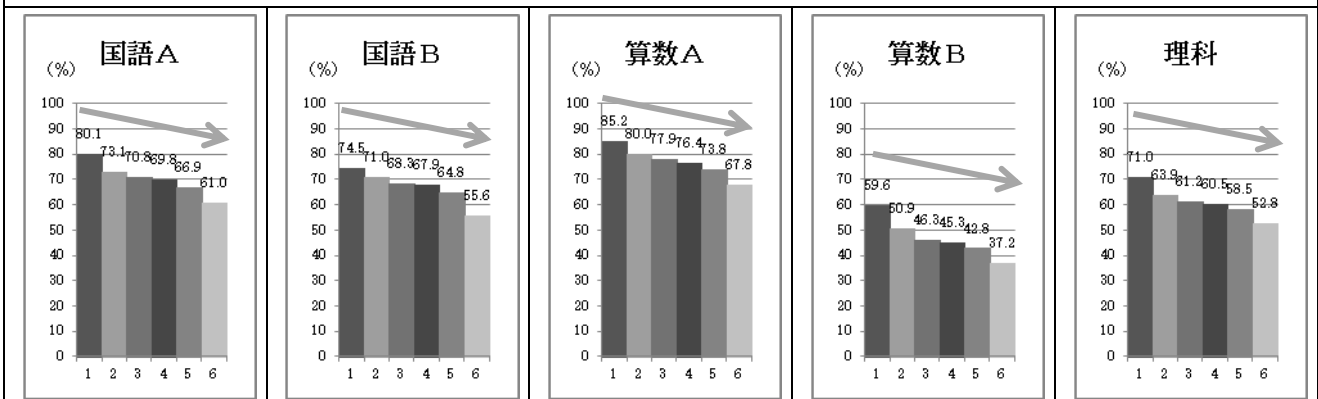
(13) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- (1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない)



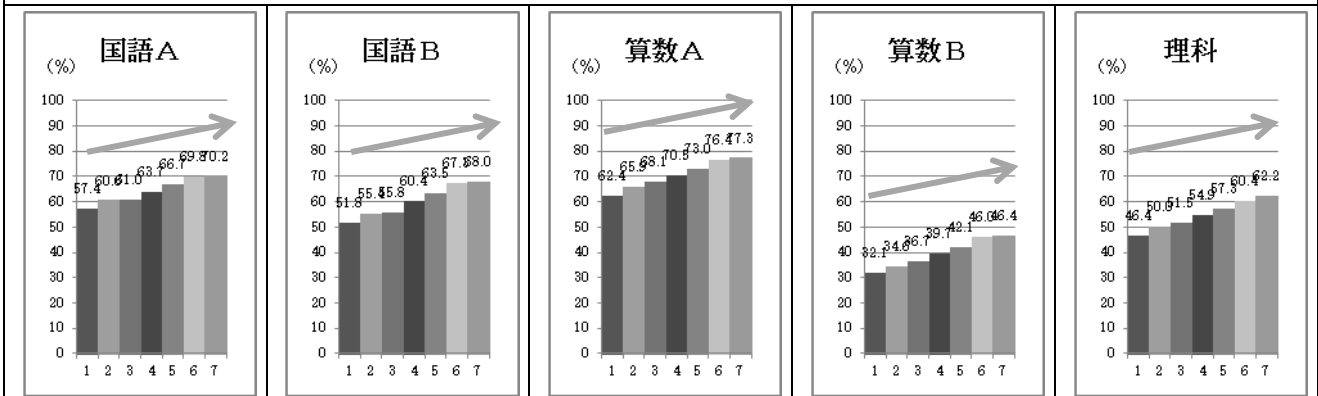
(14) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- (1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない 4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない)



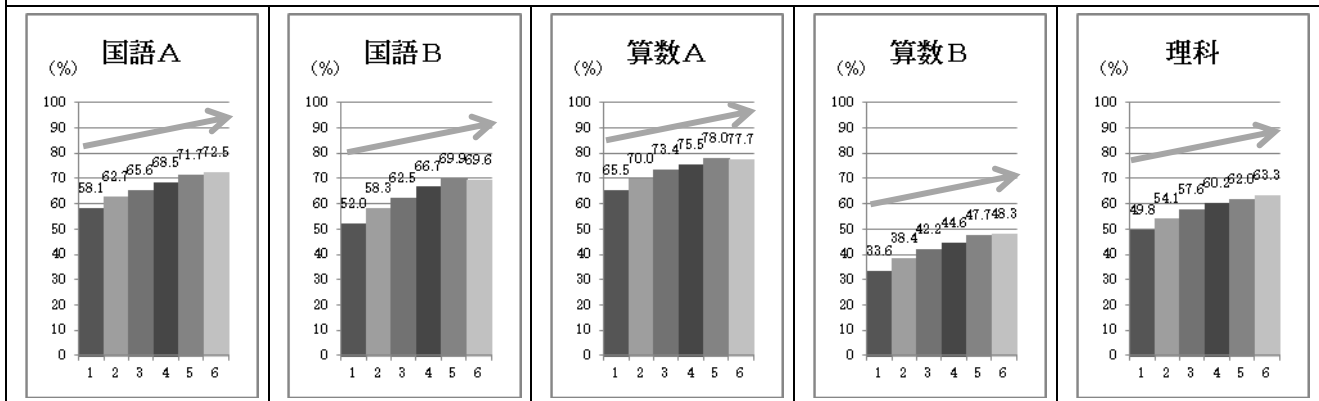
(12) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

- (1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない 4 1時間以上、2時間より少ない 5 30分以上、1時間より少ない 6 30分より少ない 7 携帯電話やスマートフォンを持っていない)



(11) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

- (1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない 4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない)



◆◆解答への姿勢◆◆

調査実施に対する事前の児童の心構えの形成が大切です。

【関連項目】

| 番号 | 質問 |
|------|---|
| (57) | 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか |
| (68) | 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか |
| (82) | 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか |

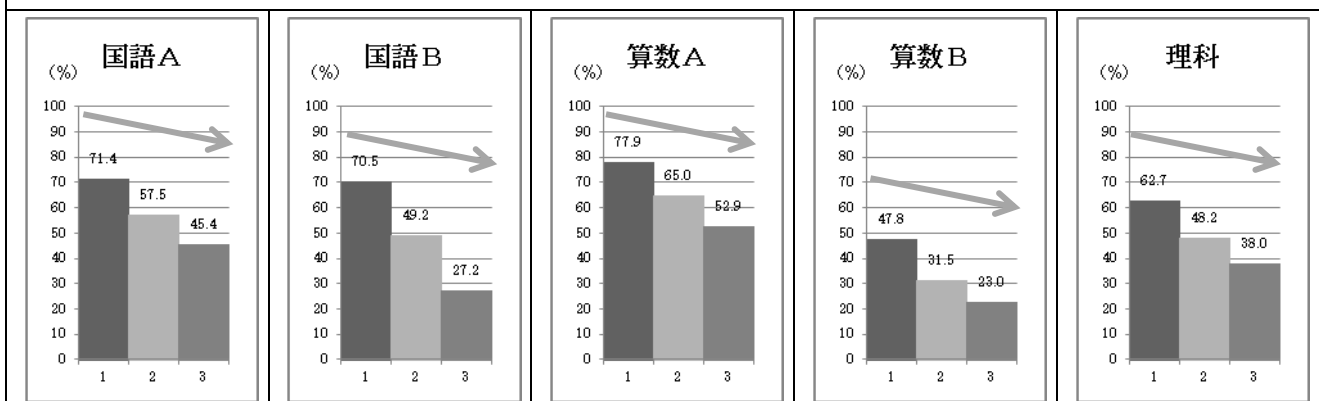
どの質問項目も全ての教科と明確な関連があることがわかります。教科に関係なく、調査問題に対して最後まで粘り強く取り組めるかということ、もっと言えば、何事にも粘り強く取り組むことができるか、ということが結果に反映されています。

また、担任等からの調査前の意義の説明や調査中の励ましの有無にも影響があると考えられます。

【教科に関する調査の平均正答率と関連が見られる項目】

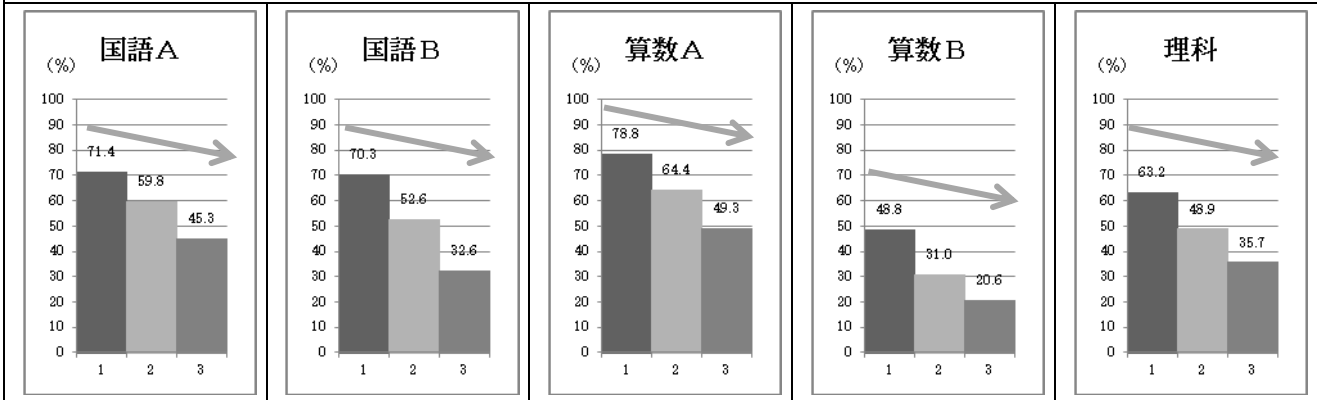
(57) 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか

- (1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めた
りしたものがあった 3 書く問題は全く解答しなかった)



(68) 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか

- (1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めた
りしたものがあつた 3 書く問題は全く解答しなかった)



(82) 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

- (1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めた
りしたものがあつた 3 書く問題は全く解答しなかった)

